平和・共生　個性・創造　自立・発展

沖縄国際大学

Okinawa International University

第1回ホームカミングデーでライブを行う下地勇さん（商経学部第二部商学科29期卒業）関連記事P3

学報第97号（2011.12.27発行）

CONTENTS

韓国・韓南大学校との姉妹校交流協定20周年記念式典・祝賀会を開催 ‥ P2
韓南大学校において事務職員研修を実施 ‥ P3
第1回ホームカミングデーを開催 ‥ P3
米軍ヘリコプター墜落後、7年目を迎えて（声明） ‥ P4
2010年度国外研究員報告 ‥ P5
グラウンド改修工事起工式 ‥ P5
名誉教授称号記授与 ‥ P5
海外インターンシップ2011 実習報告会 ‥ P6
平成23年度 教育実習実施状況報告 ‥ P6
平成23年度 相談援助実習及び精神保健福祉援助実習報告 ‥ P6
平成23年度 後援会支部総会の開催 ‥ P7
平成23年度 うまんちゅ定例講座実施報告 ‥ P7
平成23年度 事務職員夏期研修開催 ‥ P7
キャリア支援課からの情報 ‥ P8～P9
国際交流センター ‥ P10
外国語センター ‥ P10
図書館 ‥ P10
平成23年度（前期）沖縄国際大学総合研究機構活動報告 ‥ P11
平成23年度 特待奨学生証書交付 ‥ P12
学P沖縄リーグ2011に参加 ‥ P12
第8回「おきなわの観光」意見発表コンクールで優秀賞、優良賞、学校特別賞受賞 ‥ P12
第55回全日本学生空手道選手権大会「男子個人形の部」において全国制覇! ‥ P13
学生インタビュー ‥ P13
あじまー35（呉屋悟空） ‥ P13
第40回沖国大祭 ‥ P14～P15
平成23年度 研究費交付決定額一覧 ‥ P16
本学教員出版物紹介 ‥ P17
平成22年度 事業報告（抜粋）の開示 ‥ P17
平成22年度 決算報告書 ‥ P18～P19
学内人事 ‥ P19
2012（平成24）年度 入学試験日程 ‥ P20

韓国・韓南大学校との姉妹校交流協定20周年記念式典・祝賀会を開催

10月13日,厚生会館4階において本学と姉妹校協定を締結している韓国・韓南大学校との交流協定20周年記念式典・祝賀会が開催されました。

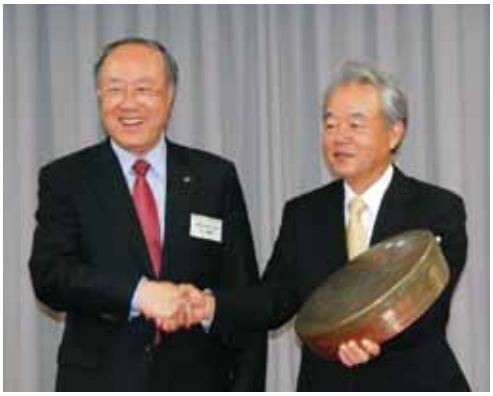
韓南大学校からキム ヒョンテ総長、ハン サンボン総同窓会長、ソ ヨンソン対外協力処長、パク ギルチョル学術情報処長、キム ウォンベ国際交流チーム長、パク ヨンソ学事管理チーム長、ソン ユイル対外協力チーム長、購買管材チームのチョ ヒョニルさん、キム ソンホ施設管理チーム課長、国際交流チーム日本担当のイ ジョンヒョンさんの10名の方々が参加されました。

キム ヒョンテ総長は、「沖縄国際大学との交流 20 周年を心よりお祝い申し上げます。今まで、両大学の交流の歴史の中で、21 世紀に新たな架け橋を尽くしていただいた教職員の皆さまに深く感謝いたします。この交流が今後さらに充実していくことを、私をはじめ韓南大学校すべての構成員が祈っております。今後とも両大学がさらに深い交流活動を行うことを期待し、それを実現すべく両大学が共に協力していくことを願っております。」と挨拶されました。

富川盛武学長は、「韓南大学校と沖縄国際大学の協定校締結が 20 周年を迎え、ここにキム ヒョンテ韓南大学校総長をはじめ多くの方々をお迎えして、記念祝賀式典を挙行できることはこの上ない喜びであります。韓南大学校と沖縄国際大学が学術・教育・文化の交流をさらに深化させ、共に「知の拠点」としてアジアの時代の担い手になることを期待し、挨拶といたします。」と祝辞を述べました。

照屋寛之副学長による乾杯の挨拶の後、琉球芸能文学研究会による祝儀舞踊、空手部による空手演武、韓南大学校への留学経験者4名、韓南大学校からの留学生3名による韓国語・日本語の挨拶、琉球風車によるエイサー等、沖縄の文化芸能を堪能できる内容で会場は盛り上がりました。

祝辞を述べる富川盛武学長


記念品贈呈の様子

韓南大学校―沖縄国際大学交流協定20周年の歴史

1991（平成3）年に国際交流協定締結後、学生や教職員の交流が活発に行われてきました。交換留学は、1996年度から開始して2011年度までに40名の学生を派遣し、1994年度から2011年度までに45名の学生を受入れてきました。海外語学・文化セミナーは、1999年度から開始し、2011年度までに126名の学生を派遣し、2000年度から2011年度までに123名の学生を受入れしています。

教職員の交流

【派遣】

1992 年度	「国際教授セミナー」に教員 4 名を派遣
1994 年度	国際交流に関する協議のため、国際交流委員 1 名を派遣
〃	初めての事務職員研修に 2 名を派遣
1996 年度	事務職員研修 2 名を派遣
1997 年度	「'97 国際学術セミナー」協議のため国際交流センター所長を派遣
1998 年度	事務職員研修 2 名を派遣
〃	「韓南大学国際交流 20 周年記念セミナー」に発表者 1 名を派遣
〃	初めての国外研究員 1 名を派遣
2000 年度	事務職員研修 3 名を派遣
〃	「国財合同セミナー」に教員 1 名を派遣
2001 年度	国外研究員 1 名を派遣
2002 年度	事務職員研修 3 名を派遣
〃	国外研究員 1 名を派遣
2007 年度	事務職員研修 2 名を派遣
2008 年度	韓南大学校・四国学院大学協定 30 周年記念式典に学長他 1 名出席
2009 年度	事務職員研修 3 名を派遣
2011 年度	交流協定 20 周年記念式典祝賀会に 10 名出席

【受入】

1991 年度	総長一行「国際交流協定調印式」に出席
1992 年度	総長夫妻が表敬訪問
1993 年度	初めての事務職員研修受入 2 名
1994 年度	理事長夫妻が表敬訪問
〃	「1994 沖縄・韓国国際学術セミナー」発表者 4 名を招聘
〃	理事が表敬訪問
1995 年度	事務職員研修 3 名受入
1996 年度	「'96 国際平和シンポジウム」発表者 1 名
〃	総長ほか 1 名「学術交流協定」更新のため訪問
1997 年度	「'97 国際学術セミナー（沖縄・台湾・韓国三協定大学セミナー）」発表者 1 名を招聘
1998 年度	初めての国外協定校客員研究員 1 名受入
1999 年度	事務職員研修 2 名受入
2000 年度	国外協定校客員研究員 1 名受入
〃	事務職員研修 10 名受入
2001 年度	事務職員研修 3 名受入
〃	「2001 国際学術セミナー」発表者 2 名を招聘
2002 年度	国外協定校客員研究員 1 名受入
2003 年度	韓南大学学生役員引率者 3 名受入
〃	事務職員研修 3 名受入
2004 年度	国外協定校客員研究員 1 名受入
2008 年度	総長他 3 名が表敬訪問
〃	事務職員研修 3 名受入
2010 年度	総長他 3 名が表敬訪問
〃	事務職員研修 4 名受入
2011 年度	「交流協定 20 周年記念式典祝賀会」に 10 名出席

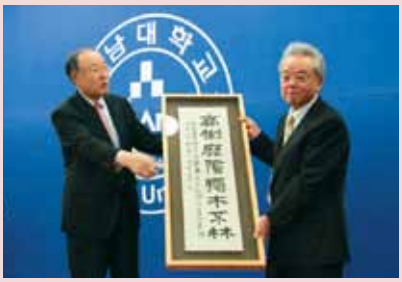
韓南大学校において事務職員研修を実施

11 月 8 日～ 11 月 11 日の日程で、韓国の韓南大学校にて事務職員研修を実施しました。本学からは、徳原峰一キャリア支援課長、岸本ジャン会計課係長、水村千恵子国際交流センター主任、大城鈴香総務課係員、佐藤敬明経営策室係員を派遣し、キャンパス施設見学、業務研修や文化交流を通し、両大学の職員同士の絆を深めました。

また、11 月 10 日には韓南大学校－沖縄国際大学交流 20 周年記念式典が行われ、本学から富川盛武学長をはじめ、照屋寛之副学長、大城朋子国際交流センター所長、李炫姃国際交流センター副所長、岸本孝根国際交流センター職員が出席しました。

式典ではキムヒョンテ韓南大学総長の祝辞を頂いた後、富川盛武学長から今日までの両大学の交流へのお礼と今後の更なる交流を誓い、記念品交換が行われました。

本学から派遣された5名の職員


キムヒョンテ総長より記念品を贈呈される富川学長（写真右）

韓南大学校職員との記念撮影

第1回ホームカミングデーを開催

11月27日、沖縄国際大学校友会主催でホームカミングデーが開催されました。

ホームカミングデーは、沖縄国際大学創立40周年記念のプレイベントということで、卒業生の集いとして、多くの卒業生の皆さまに現在の沖縄国際大学の様子をご覧いただき、会員同士の交流の場になることを目的として開催されました。

上原秀雄校友会会長

はじめに、オープニングセレモニーの中で、上原秀雄校友会会長より「本学創立40周年を記念し、第1回ホームカミングデーが大学祭と共に挙行されますことは誠に喜ばしい限りであります。ここには、青春の思い出の学舎、懐かしい恩師や学友との出会いがあります。そして、共感の和へと広がり、やがて、その一体感は母校と校友の新時代への絆を一層強化し、母校の更なる飛躍・発展への礎石となります。『めんそーれ沖国大へ』を合言葉に、校友の皆さまをはじめ、ご家族の皆さまのご来校を心から歓迎申し上げます。」と挨拶がありました。

富川盛武学長より「本学は平成24年2月25日に創立40周年を迎えます。そのプレイベントとして、大学祭に、約4万6千人いる卒業生をお迎えするホームカミングデーを開催することになり大変嬉しく思います。卒業生の皆さまは、産業、行政、教育等の各界でご活躍され、沖縄の屋台骨を担っております。また、県外、海外でも多くの卒業生が活躍し『沖縄人』の心意気や『沖国大魂』を示しています。久方ぶりに母校を訪ねて頂き、卒業生、在学生、保護者、地域の皆様と旧交を温め、ヒューマンネットワークを構築して頂き、皆様のご発展と地域の振興に繋げて頂ければ幸いです。」と挨拶しました。

交流会の後、ひがけい子さん（短期大学部国文科８期卒業）＆シュビーズ、下地勇さん（商経学部第二部29期卒業）による卒業生ライブで盛り上がりました。

当日は、沖国大祭とともに開催され、多くの皆さまにお楽しみいただけたと思います。ご参加いただきましたOB、OGの皆さまご来場ありがとうございました。

下地勇さん（写真中央）のライブ

ひがけい子＆シュビーズのライブ

米軍ヘリコプター墜落後、7年目を迎えて（声明）

理事長・学長　**富 川 盛 武**

今年は沖縄国際大学に米軍ヘリコプターが墜落して7年目になった。事件直後から、理不尽で悲惨な事件に対し米軍をはじめ関係諸機関に強く抗議し、飛行中止を求めてきた。しかし、未だ本学の上空を飛行し、問題解決がなされていない。普天間基地の閉鎖・返還を求めてきたにも関わらず、取り巻く情勢は膠着が続く可能性が高くなっている。加えてオスプレイの配備計画が出て、危険性も増大する。このような現状を憂い、ここに改めて、普天間基地を使用する航空機の即時飛行中止とともに、普天間基地の一日も早い閉鎖・返還を日米両政府はじめ関係諸機関に要求する。

事件後、米軍関係者が陳謝し、政府関係者、政党関係者、その他多くの関係者が本学を訪れ、お見舞いを賜った。その際、「二度とこのような悲惨なことが起こらないように努力、協力する」とのことであった。しかし、多くの人々の抗議・要求をよそに、未だ本学上空を飛行しているのが現状である。しかも、その打開策が見えず、普天間基地の危険性が更に増大することは遺憾至極である。

大学は、もとより、静かな環境の中で勉学・研究をする場である。例え、いかなる国際政治論、安全保障論で飛行を正当化しても、大学の静寂・安寧を脅かし、生命すらも脅かす飛行は大学にとって認められない。

「安全、安心、平和」は思想、信条を超えて万人の求めるところである。本学は、地域に根ざし、世界に開かれた大学として、地域と経験を共有しつつ連携して、「安全、安心、平和」のために、普天間基地を使用する航空機の即時飛行中止を強く求める。（2011年８月13日）

「普天間基地を使用する航空機の飛行中止を求める学内の集い」を開催

８月 13 日、午後２時より、「普天間基地を使用する航空機の飛行中止を求める学内の集い」を開催しました。

声明を発表する富川盛武学長

今年度は二部構成で開催され、第一部の集いへの参加者数は約190 名でした。

集いの中で富川盛武学長は、「事件直後から米軍や関係機関に強く抗議し、飛行中止を求めてきたが、未だ問題解決はなされていない。大学の静寂・安寧を脅かし、生命すらも脅かす飛行は大学にとって、認められるものではない。普天間基地を使用する航空機の即時飛行中止とともに、普天間基地の一日も早い閉鎖・返還を強く求める。」と声明を発表しました。

また、学生を代表して、総合文化学部社会文化学科 4 年次、SmiLife 副代表の渕野秀賢君（読谷高校出身）は意見発表の中で、「私たち自身、米軍ヘリ墜落事件を直接経験した世代ではありません。だからこそ、関心を持って理解するということが重要です。今日の集会を通じて、少しでも米軍基地の事に関心を持ち、平和について考える機会としたい。」と発表しました。

社会文化学科４年次　渕野秀賢君

第二部では宜野湾市基地政策部長 山内繁雄氏による「普天間基地」の講話が行われた後、演芸集団 FEC の皆さんによる特別公演「お笑い米軍基地」が行われ、約 550 名の観衆を魅了しました。

元事務職員の山根光正さん

集会趣旨説明を行う照屋寛之副学長

講話「普天間基地」の様子

演芸集団FECの皆さん

2010年度 国外研究員報告

常夏の島・アロハの島で考えたこと

総合文化学部 人間福祉学科 教授　保 良 昌 徳
研修期間：平成22年４月～平成23年３月

人口約 130 万、青い海と青い空、亜熱帯気候の観光地、郊外にはサトウキビ畑とパイナップル畑、独自の言葉や文化を有し、19 世紀まで武器のない独立王国として栄え、太平洋戦争で大きな被害を出し、未だに広大な米軍基地が存在する島々、それがハワイの姿であり、沖縄との共通点が多いと言われる所以である。

太平洋の中央に位置し、西欧と東洋の血が混ざり合い、固有の文化や言葉が形成され、色々な宗教が仲良く共存、「アロハスピリッツ」に示されるホスピタリティーに溢れた島、と言ったら褒めすぎだろうか?

しかし、このような平和な人々の生活にも、歴史や政治、社会システムが大きな影を落としている。太平洋戦争はハワイで始まり、最後は沖縄戦であった。大きな戦略基地と基地依存体制、一握りの人が所有する広大な土地、華やかな観光客と自然の生活を重視する原地ハワイに祖先を持つ人々の姿にも考えさせられた。

強い者はより強く豊かになり、弱い者はより追い詰められる個人主義・競争原理の社会、些細なことにも訴訟を起こし、合理的・科学的であるようで極めて宗教的な社会であるアメリカ、豊かな国でありながら貧困や離婚を生み出し、６人に一人は医療保険がなく十分な医療は受けられないアメリカ、ハワイでもホームレスが増加し、病気や介護を必要とする高齢者は、持てる財産をすべて注ぎ込み文無しになっていく仕組みがある。

福祉国家論の中で自由主義レジームの代表にあげられるアメリカにあって、オバマ大統領を生み出した常夏の島ハワイは、個人と社会、戦争と平和、自由と権利、富と貧困など、様々な社会問題を静かに考えることができ、同時に、異なる人種・文化・価値観の人たちが共に生きる共生社会を考えるヒントがあるような気がしてならない。

ハワイを拠点にアジアやヨーロッパを回り、得ることの多い一年であった。大学をはじめ、関係者に心から感謝する次第である。

路上に並ぶホームレスのテント

ワイキキのカピオラニパークにて

グラウンド改修工事起工式

10月28日、11月から始まる改修工事着工に先立ち、工事予定地である本学グラウンドにて、起工式を行いました。式には、本学関係者、設計及び施工関係者が参加し、清祓之儀で、神職が工事を行うグラウンドを清めた後、本学からは富川盛武学長が代表して鍬入れを行い、工事の安全を祈願しました。

平成23年11月1日に工事を着工し、平成24年2月中旬には、人工芝を敷き詰めた全天候型のグラウンドに生まれ変わる予定です。

地鎮祭（鍬入れ）の様子

名誉教授称号記授与

4月27日、本館5階応接室において総合文化学部宮城勇教授に名誉教授の称号記が授与されました。
宮城先生の他、総合文化学部高橋俊三教授を含めて、本学において同称号記を贈られた名誉教授は44名になります。

称号記を授与される総合文化学部　宮城　勇 教授（写真右）

海外インターンシップ2011 実習報告会

11月16日、13号館301教室において海外インターンシップ2011実習報告会が行われました。

海外インターンシップは職業体験学習を通して、自ら将来の適性を見定め、職業観を養うという既成のねらいはもとより、その学習の場を海外、とりわけ成長著しい中国とし、国際感覚の涵養と国際的な場で活躍できる人材の育成を目指して行われました。

実習期間は、9月4日～9月11日までの8日間で、四川省成都在の日中合弁会社である「成都ウィナーソフト」での就業体験、日系企業への訪問や市場視察などを行いました。今回は、2年次以上の学生を募り、12名の応募の中から選考の結果、5名の学生を派遣しました。

実習に参加した産業情報学部企業システム学科3年次外間俊貴君は「国外で働くためには、マネジメントや統計を分析する能力が必要であり、その土台として語学力が必要だと感じました。」と報告しました。

法学部法律学科4年次金城綾香さん（コザ高校出身）は、「日系企業が言語、文化の違いを乗り越え日中間で経済活動を融合させグローバルな活躍をしていることにとても驚嘆しました。」と報告しました。

産業情報学部企業システム学科3年城間貴彦君（那覇西高校出身）は、「今回の経験を通して、自分自身が如何に未熟であるかを痛感しました。今回の経験を生かし、将来は世界に通用するビジネスマンになりたいという気持ちが強くなりました。」と報告しました。

産業情報学部企業システム学科2年次張秀青さん（福建省連江華僑中学出身）は、「発展している中国の経済状況を自分の目で確認でき、中国市場の広さを感じることができました。」と報告しました。

産業情報学部企業システム学科3年次金城茉乃さん（中部商業高校出身）は、「国際ビジネスの感覚と、自分に付加価値をつける事が重要だと感じました。沖縄を活性化するためには、自分自身が成長しなくてはいけない。」と報告しました。

平成23年度　教育実習実施状況報告

沖縄県教員の資質向上連絡協議会の申し合わせにより、6月実習（主に高校実習）は6月第1月曜日から2週間、9月実習（主に中学校実習）は3学期制の場合、9月5日（月）～9月27日（火）、2学期制の場合は夏期休業明けの第1月曜日から15日間という日程で行われました。

詳しい内容は下記のとおりです。また、本学では『特色GP』で採択されたように実習前・中・後に教育実習に関するきめ細かい指導を行っております。

実習期間

＜6月実習＞6月6日（月）～6月17日（金）　正味10日間
＜9月実習＞①3学期制：9月5日（月）～9月27日（火）　正味15日間
②2学期制：夏期休業明けの第1月曜日から開始　正味15日間

実習生数

①実習期間
5月実習生：4名
6月実習生：52名
7月実習生：2名
8月実習生：3名
9月実習生：60名
【合計：121名】

②実習校
・中学校実習生：71名（54校）
・高等学校実習生：50名（29校）
【合計：121名（83校）】

③教科
英語：16名
公民：17名
国語：40名
社会：25名
商業：5名
情報：5名
地歴：7名
福祉：6名

事前指導

5月1日：第1回教育実習オリエンテーション
5月13日：第2回教育実習オリエンテーション
7月1日：第3回教育実習オリエンテーション

事中指導

■2週間実習：第1週目の土曜日に教科教育法教員を交えて実習生による中間懇談会
■3週間実習：第2週目の土曜日に教科教育法教員を交えて実習生による中間懇談会

事後指導

■教科別反省会：教育実習終了後、教科教育法毎に教育実習の感想・反省点を報告する。

平成23年度　相談援助（社会福祉援助技術現場）実習及び精神保健福祉援助実習報告

人間福祉学科3・4年次を対象に、社会福祉士国家試験受験資格及び精神保健福祉士国家試験受験資格の取得要件である「相談援助実習」「社会福祉援助技術現場実習」及び「精神保健福祉援助実習」を下記の日程で行いました。

各実習は、福祉従事者として必要な専門知識及び援助技術、関連知識への理解、必要な資質と能力の向上、専門従事者としての倫理観、人格の形成などを目的とし、主に夏期休暇中に行われました。

実習生は基本的に1名につき1～2ヶ所で180時間以上の実習を行います。事情により集中的に実習を行えない場合は、数カ月かけて行う分散型実習となります。実習の前後に実習担当教員を中心としたきめ細かい指導を行い、実習中も大学での学内指導や実習担当教員が施設へ巡回し実習生へ指導を行っております。

実　習

1カ所での実習：180時間以上
2ヶ所での実習：60時間以上+120時間以上
または90時間以上+90時間以上

実習期間

前半実習：8月5日（金）～8月26日（金）の期間で60時間以上
または120時間以上または90時間以上
後半実習：8月29日（月）～9月16日（金）の期間で60時間以上
または120時間以上または90時間以上
集中型実習：8月5日（金）～9月16日（金）の期間で180時間以上
分散型実習：8月5日（金）～12月2日（金）の期間で180時間以上

実習施設数及び配属実習生数

相談援助（社会福祉援助技術現場）実習（実人数81名・延べ人数101名）
60時間以上＋120時間以上：7名、90時間以上+90時間以上：13名
180時間以上：57名、分散型180時間以上：4名
機関数：30ヶ所（病院含む）、施設数：28ヶ所　合計：58ヶ所

精神保健福祉援助実習（実人数8名・延べ人数16名）
90時間以上+90時間以上：8名
精神科病院：7ヶ所　施設：6ヶ所（診療所含む）合計：13ヶ所

実習指導

事前指導
オリエンテーションⅠ：平成22年11月9日（火）
オリエンテーションⅡ：平成23年6月7日（火）
オリエンテーションⅢ：平成23年7月5日（火）

実習中指導
学内指導日：平成23年8月13日（土）及び9月3日（土）
巡回指導：実習担当教員が全ての実習施設を巡回し指導にあたる

事後指導
実習生はそれぞれの担当教員から事後指導を受ける

平成23年度　後援会支部総会の開催

平成 23 年度の沖縄国際大学後援会支部総会を開催しました。支部総会に先立ち教職員との学生生活、学業及び就職相談が行われ、保護者の皆さんが熱心に相談しておられました。

池田光男会長から、去る５月に行われた後援会定期総会で、決算・予算・役員改選並びに新年度事業計画が承認され、新たにスタートしたことの報告がありました。また、支部総会の全ての議案が承認され、新旧役員の皆さんのご労苦に対し感謝し、「会員相互の親睦は、活性化につながり、大学の支援となりますので、地域の方々への大学 PR 活動をお願します」と挨拶された。

富川盛武学長は、本学創立 40 周年記念式典の開催と大学祭でホームカミングデーを開催する趣旨説明を行い、「卒業生が一堂に集い校友を深めることにより大学発展に資するものです」と参加を呼び掛けました。また、挨拶の中で「学生中心主義の教育の推進」「SA/TA 制度による講義のサポート」「奨学金制度の拡充・離島学生への経済的負担の軽減」などの大学で取り組んでいる主な基本姿勢を示され、教育の質の向上に努めたいと強調された。

照屋寛之副学長からは、「お子さんが『沖縄国際大学に入学してよかった』といえる教育の質を保証する大学でなければならない」そのためには授業日数の確保・授業内容の改善に努め、学生の満足度を高める教育環境づくりや奨学金制度においては、今年度も大幅な予算増をしたこと。就職支援では、企業がどういう人材の学生を望み、どういう教育を望んでいるか、企業との連携を図り、就職に強い大学を目指していることをお話しされた。

今年度も昨年度に引き続き就職講演を行いました。八重山・宮古・久米島では喜久村進キャリア・カウンセラーによる「わが子の就活サポート」と題して、また、北部では松堂美和子キャリア・アドバイザーが「沖縄県における学生の就職活動の現状と課題」について、親が就職の現状を理解し、学校や家庭で対話を意識する環境づくりや親の協力なしでは就職活動を続けていくことは困難であると講演された。

全日程の終了後、大学関係者・高校長・校友会支部の役員もご出席のもと、懇親会が行われ、廣瀬牧人常務理事の乾杯の音頭ではじまり、保護者の皆さんの余興や子供たちの民謡ショーで盛り上がりました。

八重山支部総会

宮古支部総会

北部支部総会

久米島支部総会

①八重山支部総会〔10月８日(土)支部長 安村　悟朗（会員数 78名）於：南の美ら花ホテルミヤヒラ〕
②宮古支部総会〔10月９日(日)支部長 奈良俊一郎（会員数123名）於：ホテル共和〕
③北部支部総会〔10月22日(土)支部長 當山　幸宏（会員数346名）於：ホテルゆがふいんおきなわ〕
④久米島支部総会〔10月29日(土)支部長 佐久本政浩（会員数 36名）於：リゾートホテル久米アイランド〕

平成23年度　うまんちゅ定例講座実施報告

毎年、公開講座委員会主催で行っている「うまんちゅ定例講座」。

今年度は「産業と情報を取り巻く情報―多様な情報と産業―」と題し、6月から10月まで全８回の講座を産業情報学部の教員が中心となり開催いたしました。

高度な情報化社会の到来により、私たちは多くの情報を手に入れ、利用することができます。情報技術は我々に身近なオフィスや家庭のコンピュータや携帯端末だけでなく、それらの情報技術が複合的に結びついた情報システムとして、産業活動においてもその機能を最大限に発揮しています。ここで重要なことは、その情報技術そのものだけでなく、既存の情報を産業に取り入れていく技術も革新化されていることであり、多くのビジネスチャンスがそこに含まれていることを理解し、利用することなのです。

本講座では、沖縄国際大学産業情報学部で講義を担当している研究者が、このような高度情報化社会と私たちの暮らしを支える産業がどのように関わっているかを多様な切り口から考えていきます。そのことによって、高度情報化社会で皆さんが係わっている産業・ビジネスがどのように活性化していくかを知る道しるべとなることができれば幸いです。

延べ約150名の受講生の方にご参加いただきました。

今回の講座内容は、書籍化され2012年３月に全国の書店で販売予定です。

平成23年度　事務職員夏期研修開催

事務職員の資質向上を目的として、東村セミナーハウスにおいて「平成23年度事務職員夏期研修」が8月30日から31日の2日間開催されました。

今年度は、「本学の発展と事務職員の役割」と題した学長の講話のあと、東村つつじパークにてプログラムアドベンチャーを行いました。翌日は、「ダイアログの手法を利用したワークショップ」と題して、班別に「ビジョンの響有」をテーマにワークショップを行いました。

プログラムアドベンチャーの様子

ワークショップの様子

キャリア支援課からの情報

2013（平成25）年の就職に向けて、3年生の就職活動が12月からスタートします。それに先駆けてキャリア支援課による「就職ガイダンス」も9月30日から始まっています。就職先を決めることは、卒業後の人生を左右する大切な選択です。早めに取り組むことが、希望の進路に就く近道となります。

3年生の皆さんが長く厳しい就職活動を乗り切り、希望する企業の内定を手にするために、キャリア支援課では様々な形で就職活動をサポートします。上手に利用して就職活動を有利に進めてください。

就職ガイダンスはじまる

3年生を対象とした就職ガイダンスが始まりました。ガイダンスでは、キャリアカウンセラーの喜久村進氏（リンク人財センター）を講師に招き、就職活動のノウハウを学ぶための連続講座（全5回）として左記のテーマにそって開講しました。

就活を成功させ、希望の仕事につくために、ガイダンスで学んだことを活かして下さい。

〈就職ガイダンステーマ〉
第１回「就活の基本をマスターしよう」
第２回「自己分析と企業研究は就活の必須です」
第３回「書類審査（エントリーシート）や筆記試験をどう突破するか」
第４回「面接突破の具体策」
第５回「内定者（先輩）から学ぶ就活のノウハウ」

就職相談

就職活動を進めるにあたり、悩んだり戸惑ったりすることが多々あります。そんな時、一人で悩まずキャリア支援課の窓口に相談に来てください。キャリア支援課を大いに活用して就職活動を乗り切りましょう。

1．キャリアカウンセラーによる就職相談

キャリアカウンセラーによる「就職なんでも相談」を行っています。ここでは、就職に対する意識と行動力を身につけることを主な目的としています。就職や進路に関することなら、学年を問わずどなたでも利用できます。

将来の進路のことや具体的な就職活動の進め方、自己分析の仕方、履歴書やエントリーシートの書き方についての指導、模擬面接など、どんなことでも気軽にご相談下さい。

また、ワークショップ等も開催していますので奮ってご参加下さい。

なお、キャリアカウンセラーによる相談は予約制となっていますので、以下のとおりお申し込み下さい。

●相　談　日：毎週火曜日　14：00～18：00
　　毎週水曜日　14：00～18：00
　　毎週木曜日　13：00～17：00
●場　　所：本館３階会議室
●予約窓口：キャリア支援課にて随時受け付けています。

2．沖縄県キャリアセンターによる就職相談

毎月２回沖縄県キャリアセンターの相談員による大学巡回相談を行っています。学年を問わず就職に関する相談を受けていますので、希望される方は以下のとおりご利用下さい。

●相　談　日：第１・３月曜日　11：00～16：00
●場　　所：本館３階会議室
●予約窓口：キャリア支援課にて相談日の前週末日まで受け付けています。

3．ハローワーク沖縄による就職相談

ハローワーク沖縄のジョブサポーターによる大学巡回相談を行っています。学年を問わず就職に関する相談を受けていますので、希望される方は以下のとおりご利用下さい。

●相　談　日：第２・４月曜日　13：30～16：00
●場　　所：本館３階会議室
●予約窓口：キャリア支援課にて相談日の前週末日まで受け付けています。

4．キャリア支援課スタッフによる就職相談

キャリア支援課スタッフによる履歴書添削、模擬面接を行っています。どちらも予約が必要ですので、希望される方は以下のとおりご利用下さい。

〈模擬面接および履歴書添削〉
●相　談　日：月曜日～金曜日の随時
●場　　所：キャリア支援課個別面談室
●予約窓口：キャリア支援課にて随時受け付けています。
●予約時に必要なもの：「履歴書添削」「模擬面接」を予約する場合は、受験する企業に提出する履歴書またはエントリーシートのコピー
※その他、就職に関する相談を学年を問わず随時受け付けています。

就職関係行事

以下の日程で就職ガイダンスや就職行事を開催しました。学内会社説明会等も行われる予定ですので、詳細及び申し込み手続を掲示板等で確認し、キャリア支援課窓口で申し込んでください。

◆SPI対策講座　10月20日～11月15日（全15回）
◆SPI模擬試験　11月21日
◆一般教養模擬試験　11月22日
◆就職内定者報告会　12月９日
◆学内業界研究セミナー　12月14日～16日
※上記以降も多数開催予定

＜その他の就職試験対策講座＞

就職試験対策講座については、例年以下の内容で予定しています。

詳細が決まり次第掲示板等でお知らせいたします。

●教員採用試験対策講座
●論文試験対策講座
●面接試験対策
●就職マナー講座

県外就職サポート

本学では、県外就職活動時の旅費の一部を補助する「県外就職活動補助金制度」などにより、県外就職を希望する学生を支援してまいりました。

さらに昨年度からは、県外で就職活動を行う際の拠点として活用できる「沖縄国際大学就職活動サポートセンター」を東京に設置しました。県外でも就職相談、履歴書添削、模擬面接など、キャリア支援課と同様のサポートを受けることが可能になりました。キャリア支援課の東京出張所として、お気軽にご利用ください。

県外就職を希望する学生の皆さんは、サポート制度・施設を是非ご活用ください。

企業インターンシップを実施

本学では、毎年夏期休暇中（８～９月）の約２～３週間の日程でインターンシップを実施しています。今年も県内の企業や公的機関、県庁及び各市町村役場など80企業（機関）で182名の学生が実習を行いました。

また、国際感覚の涵養と国際的な場で活躍できる人材の育成を目的に、成長著しい中国四川省成都での海外インターンシップを実施いたしました。今年度は、８日間の実習に５名の学生が参加し、海外のビジネスシーンや生活文化を視察、体験しました。

インターンシップでは、実際に企業で就業体験を行うことにより、職業意識を向上させる機会に繋がります。具体的業務を体験する中で、自分自身を見つめ直し、これからの社会生活でプラスになることを多く学ぶことができます。ぜひインターンシップ制度を利用して自分の職業適性や可能性を見つけ、就職活動の参考として下さい。

採用試験合格者コメント

総合文化学部　英米言語文化学科４年次　岩城由奈（普天間高校出身）
内定先：株式会社 ANA エアサービス東京

私は、成田国際空港における全日空の国内線業務や外国航空会社の旅客ハンドリング業務を主に行っている株式会社ANAエアサービス東京から内定を頂きました。幼い頃から抱いていた国際的な場で働く夢が現実となり嬉しい気持ちでいっぱいです。

就職を意識し始めたのは、３年次の４月に受けた就職ガイダンスでした。本格的に就職活動が始まるまでにできることは挑戦したいと思い、夏休みは県外、県内のインターンシップに参加しました。実際に行動に移し、様々な社会人の方とお会いする中で自分はどんな職に就きたいのか、また適しているのか考える良いきっかけになったと思います。そして、新しい環境で刺激を受けながら更に自分自身を成長させたいと思い、県外で就職することを決意しました。

実際の就職活動では、グローバルな場に身をおける職業なら業種、業界を絞らず30社ほどの選考を受け、回数を重ねる毎に面接のコツをつかみ、自分らしさを出せるようになりました。

他人と比較するのではなく、いかに自分らしさを表現し相手に伝えるかが大切だと思います。就職活動中は、思うようにいかず落ち込むこともあります。しかし、経験することのすべては、これから社会人になるためのステップであり、マイナスになることはありません。自分が将来どんな人になりたいのか目標を持ち、最後まで諦めずに取り組めば結果はしっかりついてくると思います。

これから就職活動を始める皆さん、自分を信じて頑張って下さい！！

講座受講呼びかけメッセージ

キャリア支援課では、各種資格・検定試験の受験対策として有料講座を開設しています。今年度は、34件の講座を企画し、10月現在17講座に286名が受講しました。各種検定試験に389名が受験し、121名が難関を突破し合格しております。11月以降の開講予定講座は2月・3月の春休みをメインに講座を予定しています。

各講座で学んだことは、社会に出ても必要とされるものばかりです。興味を持った講座・検定試験に挑戦してみませんか。

平成23年度対策講座及び検定試験等実施状況

NO.	対策講座名	試験日	講座申込者合計	検定試験等 受験者	検定試験等 合格者
1	日商簿記３級対策講座（6月検定向け）	6月12日	31	下表参照	
2	話しことば検定2・3級対策講座（6月検定）	7月3日	13	下表参照	
3	国内旅行取扱業務取扱管理者講座	9月4日	8	－	－
4	色彩検定２級（6月検定向け）対策講座	6月26日	3	1	－
5	医療事務講座（7月検定向け）	7月21日	18	18	15
	医療事務コンピュータ講座（8月検定向け）	8月12日	14	6	5
6	秘書技能検定準1・2級対策講座（6・11月検定向け）	6月18日	13	下表参照	
7	行政書士対策講座	11月13日	23	23	※
8	宅建対策講座	10月17日	29	29	※
9	日商簿記２級対策講座（11月検定向け）	11月20日	10	下表参照	
10	ITパスポート（10月試験向け）対策講座	10月16日	10	10	※
11	ＰＣ検定（文書作成）３級講座（8月検定）	8月13日	4	－	－
12	ＰＣ検定（データ活用）３級講座（8月検定）	8月13日	4	1	1
13	速読講座	－	5	－	－
14	ファイリングデザイナー2・3級対策講座	8月13日	6	下表参照	
15	3級FP（ファイナンシャルプランナー）技能士受験対策講座	9月11日	9	－	※
16	福祉住環境コーディネーター2級対策講座	11月27日	13	※	※
17	ホームヘルパー講座（8月）	－	10	－	－
18	介護事務講座（8月）	9月16日	3	3	※
2-1	話しことば検定２・３級対策講座（12月検定）	12月4日	10	※	-
4-1	色彩検定２級（11月検定向け）対策講座	11月14日	4	1	※
6-1	秘書技能検定２級対策講座	11月13日	18	※	※
5-1	医療事務講座（12月検定向け）	12月16日	8	※	※
2-5	日商簿記３級対策講座（11月検定向け）	11月21日	28	※	※
2-6	公務員試験（H23.6月向け）対策講座	－	47	－	－
		合計	341	92	21

＝閉講講座　※＝未定

検定試験	試験日	申込者	合格者
FP（ファイナンシャル・プランニング技能検定）３級	5月22日	－	2
日商簿記検定　３級６月検定	6月12日	103	17
日商簿記検定　２級６月検定	6月12日	32	5
秘書技能検定２級	6月18日	59	17
秘書技能検定３級	6月18日	10	6
ビジネス能力検定　２級（対策講座無）	7月3日	15	2
ビジネス能力検定　３級（対策講座無）	7月3日	11	9
話しことば検定　２級 ６月検定	7月3日	13	12
話しことば検定　３級 ６月検定	7月3日	13	13
販売士検定　３級（対策講座無）	7月9日	26	10
ファイリングデザイナー検定　２級	8月13日	6	0
ファイリングデザイナー検定　３級	8月13日	9	7
	合計	297	100

	11月以降開講予定講座紹介	ガイダンス	試験日
2-1	日商簿記２級対策講座（H24.2月検定向け）	10月7日	2月26日
21	社会保険労務士対策講座	11月4日	来年8月
1-2	日商簿記３級対策講座（H24.2月検定向け）	12月2日	2月26日
13-1	速読講座	1月20日	－
17-1	ホームヘルパー講座（２月）		－
18-1	介護事務（２月）		3月25日
22	パーソナルカラー（新規）		－
23	カラーヒーリング講座（新規）		－
15-1	3級FP（ファイナンシャルプランナー）技能士受験対策講座		来年5月

話しことば検定2級を合格して

総合文化学部　人間福祉学科３年次　大城綾香（那覇高校出身）

もともと会話することが好きで、様々な人とコミュニケーションがとれるようになりたいと考えたことが、話しことば検定に挑戦したきっかけでした。

学校で開講された講座を受講し、傾聴することの大切さや敬語の使い方、相手に伝えやすいようにする工夫を学び、以前より会話を楽しむことができるようになり、話すことが更に好きになりました。また、検定に向けて勉強を始めてから、電話の受け応えや初対面の人とのコミュニケーションがスムーズにできるようになったと実感しています。

検定取得に向けてただ頑張るのではなく、今後に活かせるように勉強することで、検定への挑戦を楽しむことができると思います。

「まず挑戦してみること」が大切です。

国際交流センター　International Relations Center

「日本語学・文化研修」とは、本学海外協定校からの研修生たちが学内の施設に滞在しながら、日本語と日本文化を学ぶ約3週間のプログラムです。今年度は東日本大震災の影響で参加を見合わせる協定校もあり少人数での開催となりましたが、韓国の韓南大学から4名、オーストラリアのマッコーリー大学から2名の計6名が参加しました。午前は日本語学習、午後や週末は文化研修という内容で、本学教職員や国際交流ボランティア学生など、多くの方のサポートを得て、とても有意義な滞在となりました。

文化研修では北部研修、南部フィールドワークのほかに首里城や平和の礎を訪れ、読谷村のむら咲むらでは、琉球衣装の着付けや紅型工芸を体験しました。さらに、読谷村では一般家庭に迎え入れて頂いて、沖縄の生活を体験するという「民泊」にも参加し、ホストファミリーの方々の温かいおもてなしに大変感激した様子でした。また、本学東村セミナーハウスでの宿泊研修の際には東村立東小中学校を訪問し、同校生徒のみなさんが準備してくれた様々なレクリエーションをとおして交流しました。このような体験・交流を通じて、研修生たちは沖縄への理解を深め、サポートしてくれた本学学生たちとの絆を強めていました。

今年は韓南大学との交流協定20周年という節目を迎える年であるため、この研修期間中に「韓南大学ー沖縄国際大学交流協定20周年記念学生セミナー」も開催しました。韓国から参加してくれた研修生の皆さんは、限られた日程のなかで一生懸命準備をし、当日は全て日本語でプレゼンテーションを行うなど、素晴らしい成果を披露してくれました。本学から参加した帰国留学生の皆さんも、各自の発表準備をする一方で献身的にサポートし、非常に内容の充実したセミナーとなりました。

修了式においては、研修生のみなさんが自国の伝統芸能や得意なパフォーマンスを披露し、上達した日本語でスピーチを述べ、引き続き行われたさよならパーティーでは、本学学生たちとの別れを惜しむ姿が見られました。

実施月	行　事　名
4月	海外語学・文化セミナー（豪州・台湾）帰国報告会
5月	海外語学・文化セミナー（韓国）説明会
6月	外国人留学生懇親会
7月	日本語学・文化研修生（韓国・豪州）受入
	沖縄国際大学ー韓南大学校交流協定20周年記念学生セミナー開催
8月	国外協定校短期派遣留学生（仏・澳門）派遣
	海外語学・文化セミナー生（韓国）派遣
9月	国外協定校特別聴講学生（仏・澳門）受入
10月	海外語学・文化セミナー（韓国）帰国報告会
	沖縄国際大学ー韓南大学校交流協定20周年記念式典開催
	国外協定校短期派遣留学（韓国・台湾）説明会
	国外協定校短期派遣留学（韓国・台湾）選考試験
11月	沖縄地域留学生交流推進協議会主催留学生懇親会
12月	国外協定校短期派遣留学（仏・澳門）説明会
	海外語学・文化セミナー（豪州・台湾）説明会
1月	お花見
	国外協定校短期派遣留学（仏・澳門）選考試験
2月	国外協定校短期派遣留学生（台湾）派遣
	海外語学・文化セミナー生（豪州・台湾）派遣
3月	国外協定校特別聴講学生（韓国・台湾）受入
	国外協定校短期派遣留学生（韓国）派遣

外国語センター　Foreign Language Center

第4回 CALLワークショップ

外国語センターでは、毎年CALLワークショップを開催し、県内の高校教諭や語学に関わる教員を多数お招きしてCALLについて積極的に意見・情報交換を行っております。8月26日に「効果的なCALL教室の使い方」と題しまして、本学の教員である大城明子先生と下地賀代子先生に具体例を挙げてわかりやすく説明していただきました。また、球陽高校の高橋道雄先生に高校の授業の中でCALL教室を活用した実践例について講演していただきました。さらに、新しい試みとしましては、パネルディスカッションを設け、フロアーとパネリストとの意見交換が行われたことです。先生方から「非常に良かった」、「次回も是非参加したい」などの声があり、来年度さらに多くの先生方のご参加を期待しております。

第12回 学内中国語スピーチコンテスト

10月14日、「学内中国語スピーチコンテスト」が行われました。中国語の学習に力を入れている学生24人がエントリーし、言語学習や、文化及び社会など多彩なテーマで中国語による表現力を競い合いました。審査の結果、一位に宮國由佳さん（社会文化学科2年次）、二位に知花莉沙さん（英米言語文化学科3年次）、三位に野原理恵さん（企業システム2年次）、四位に與座旭さん（産業情報学科4年次）と山城郁也さん（地域行政学科3年次）、特別賞に宇座千夏さん（英米言語文化学科3年次）、奨励賞に岸本尚子さん（法律学科4年次）が選ばれました。来年度は、みなさんもチャレンジしてみませんか？

実施月	主　な　行　事
4月	英語プレースメントテスト
4月～3月	International Plaza Lunchtime English
4月～2月	語学検定対策講座：TOEFL、TOEIC、英検（2級・準1級）、中国語、韓国語、フランス語、ドイツ語、日本語、スペイン語
5月～3月	語学検定試験の実施：TOEIC、英検、韓国語、フランス語、ドイツ語、日本語、スペイン語
6月～2月	学内スピーチコンテスト：英語、中国語、韓国語、日本語、琉球語
7月	夏期日本語学文化研修・展示会
8月	CALLワークショップ
8月、2月	短期留学生成果報告会・展示会
9月、3月	CALL講習会（夏期・春期）
12月	沖縄県高校生英語ホームページ・コンテスト
3月	英語合宿セミナー

図書館

1.「宜野湾・沖縄国際大学米軍ヘリ墜落事件とは～8月13日に考える～」開催

今年も平和学習の一環として図書館2階において、8月13日（土）午後1時から6時まで企画展を開催しました。本学に米軍ヘリが墜落して7年になります。事件を風化させないためにも、また、当時の記憶を再現するためにも、資料の充実に努め、より効果的な運用に向けて準備を進めています。

来場者からは「新聞やテレビでしか見たことがなかったのでとても勉強になった」、「濃い内容の資料と説明をして頂いてよかった」、「沖縄の痛みや苦しみが分かるよう広く理解する場を提供して欲しい」、「教育現場、マスコミ、大学が三位一体となって事件を伝えて行きたい」、「毎年継続して開催して欲しい」など多くの声が寄せられました。

2. 高校生によるインターンシップ

6月28日に南部工業高校3年生3名、11月8日～9日に陽明高校2年生4名が図書館でのインターンシップを行いました。職員の指導を受けながら、装備、貸出、返却、配架などの一連の業務を体験しました。

3. 本の譲渡会（本のリサイクル）

重複等により除籍・抹消した図書を、学生や教職員へ有効活用して頂こうと昨年度に続き「本の譲渡会」を開催しました。

ダブルトラックに積まれた本を自由に手に取って読んでもらい気に入った本を持ち帰る形式で、7月11日（月）から7月15日（金）までの5日間、5号館1階ロビーにて行い、約800冊の図書を学生や教職員へ提供することができました。

大変好評のため、今後も引き続き開催する予定です。

4. 施設設備

ブラインド（3階）の設置

3階窓際が暑くて利用しにくいとの声に、西日を遮断するために3階に12台のブラインドを8月に設置しました。現在は、とても涼しく勉強が捗ると利用者からはとても喜ばれています。

スタジオ（3階）の機能強化

ビデオテープからDVD（HD）画像等へと映像メディアの移行が早まる中、学内での映像資料作製（教材、図書館新入生オリエンテーション映像ガイド等）においてスタジオの機能強化（ビデオ編集ソフトウェア、パソコン、フルハイビジョンビデオカメラ）を図りました。

平成23年度（前期） 沖縄国際大学総合研究機構活動報告

沖縄法政研究所

沖縄法政研究所第38・39回研究会

7月22日（金）に13号館研究所会議室において、「戦後沖縄史の断面－返還・復帰40年を前にして－」を共通テーマに、第38・39回研究会を連続して開催いたしました。

土江 真樹子 氏

第38回研究会

「沖縄密約をめぐる報道と裁判に見るジャーナリズムの限界と課題」
報告者：土江真樹子氏
（沖縄法政研究所特別研究員・フリージャーナリスト）

沖縄密約裁判をとおして、長年沖縄が抱える基地問題に対する報道内容や政治との関わりを、歴史を振り返りながら報告していただきました。

櫻澤　誠 氏

第39回研究会

「1950年代後半における土地闘争以後の保守再編について」
報告者：櫻澤誠氏
（沖縄法政研究所特別研究員・日本学術振興会特別研究員）

米軍基地による土地占領問題をめぐり、当時の琉球政府や政党運動、政治過程を背景に、沖縄が大きな転換を余儀なくされていった土地闘争以後の保守再編について、報告していただきました。

南島文化研究所

南島文化研究所第172回シマ研究会

後田多　敦 氏

6月13日(月)に第172回シマ研究会を開催いたしました。

今回は当研究所特別研究員の後田多敦氏をお招きして、「『丸一店』と琉球国運動」をテーマに発表していただきました。

明治期に旧尚王家が経営した「丸一店」と、その清国・福州支店である「丸一洋行」の成立から展開を明らかにしながら、当時の関係資料をもとに、丸一店が果たした役割・琉球救国運動との関わりについて、報告がなされました。

質疑応答では、参加者のみなさまから様々な質疑・情報提供をいただき、非常に有意義な研究会となりました。

また、8月23日（火）～25日（木）の日程で、南大東島調査を実施いたしました。初年度にあたる今年度の共同調査には10名の所員・特別研究員が参加しました。

南大東島調査の様子

産業総合研究所

前期は2回の研究会を開催いたしました。

平川 隆之 氏

第1回　6月3日(金)
テーマ：「クラウドの実態」
講師：平川隆之氏（クラフトナイン株式会社代表取締役）

クラウドの定義からその仕組みまで、活用事例を織り交ぜながら、わかりやすく解説していただきました。また、技術的な側面だけにとどまらず、「クラウドをどう捉えるべきか」「クラウドをどう使うか」等、ビジネス的な側面からもお話いただき、ご参加いただいた皆様からも興味深い質問が相次ぎました。

上田 隆穂 氏

第2回　6月30日(木)
テーマ：「地域活性化の考え方－石川県宝珠郡能登町の事例を中心として－」
講師：上田隆穂氏（学習院大学経済学部教授）

マーケティングを活用した地域活性化は、地域の棚卸しから始まり、地域ブランドづくり、交流人口の増大、地域住民化を目指すことが基本となります。この講演では、能登町の地域振興に携わる講演者が作成した地域振興プランについて概要を、またその一部である地産地消実験について詳しく説明していただきました。会場にはマーケティングを専攻する学生も数多く出席し、有意義な研究会となりました。

第１回研究会の様子

第２回研究会の様子

沖縄経済環境研究所

ソーシャルビジネス研究会in産学連携講座

今年度も、コミュニティビジネス・ソーシャルビジネスを担う人材の育成を目的に、NPO法人しまんちゅビジネス協議会との共催でソーシャルビジネス(SB)研究会を開催しています。

ソーシャルビジネスの実践者や専門家を講師に迎え、地域社会や学生への貢献を目的に、産学連携講座の一環として1月21日(金)まで続きます。

第19回
5月21日（土）
若月 元樹 氏

テーマ：「人口200人、牛3000頭が暮らす黒島の人々と観光と研究所」
講師：若月元樹氏
（特定非営利活動法人日本ウミガメ協議会附属黒島研究所所長）

第20回
6月20日(月)
大城 逸子 氏

テーマ：「NPOと会計の話」
講師：大城逸子氏（税理士）

第21回
7月16日（土）
親川 善一 氏

テーマ：「沖縄型のソーシャルビジネスとは～地域づくりの現場から～」
講師：親川善一氏
（沖縄県地域づくりネットワーク事務局長）

第22回
9月24日（土）
西平 朝吉 氏

テーマ：「読谷村の地域づくりについて～商工会が実践する終わりなき戦い～」
講師：西平朝吉氏（読谷村商工会事務局長）

平成23年度　特待奨学生証書交付

10月7日、各学部教授会において、平成23年度の特待奨学生証書交付式が行われました。

本学特待奨学生は「学業・人物ともに優秀で、他の模範となる学生」という基準で選考され、今回、交付対象となった30名（法学部6名、経済学部6名、産業情報学部6名、総合文化学部12名）には、授業料・施設設備資金に相当する額の奨学金810, 000円が給付されます。

今回の対象者の中には3年連続や2年連続で選出された学生もおり、交付式では各学部長からその優秀な成績と真面目な勤勉ぶりに対する賛辞が述べられました。

3年連続で選ばれた産業情報学部企業システム学科4年次天久夏希さん（読谷高校出身）は「3年連続で特待奨学生に採用して頂いたことは大きな自信につながりました。これは周りの協力があってこそだと思っているので、とても感謝しています。」と感謝の言葉を述べました。

同じく3年連続で選ばれた総合文化学部社会文化学科4年次小橋川ゆうなさん（那覇高校出身）は「3年間も特待奨学生に選んでいただき、心から嬉しく誇りに思います。今後も私を支えてくださった多くの方々への感謝を忘れず、様々なことに挑戦し、充実した大学生活を送りたいと思います。ありがとうございます。」と感謝の言葉を述べました。

総合文化学部人間福祉学科4年次屋我和泉さん（沖縄尚学高校出身）は「大学で色んなことを学んだり体験していく中で、このようなサポートが受けられる制度があるということや、私自身がその機会に恵まれた事にとても感謝しています。本当にありがとうございました。」と感謝の言葉を述べました。屋我さんも3年連続の採用となりました。

法学部

経済学部

産業情報学部

総合文化学部

学P沖縄リーグ2011に参加 ～海族丼を販売しました～

学P沖縄リーグ2011に、本学企業システム学科3年次の宮森ゼミと天野ゼミの学生8名が参加しました。学Pは、株式会社沖縄ファミリーマートが、県内に在籍する大学生を対象にした実践型インターンシップで、商品開発から販売まで行う体験型のプログラムです。

参加したメンバーは、企業システム学科3年次・照屋綾海さん（知念高校出身）、新垣まりえさん（那覇高校出身）、宜保絵利奈さん（那覇高校出身）、知名勇亮さん（陽明高校出身）、永井佑介さん（普天間高校出身）、比嘉宏美さん（浦添商業高校出身）、與那覇麻衣さん（浦添高校出身）、仲松千夏さん（那覇高校出身）の8名です。

今回沖縄国際大学チームは「海族丼」（価格480円）を販売し、学生らしい発想が評価されベストチャレンジ賞を受賞しました。

第8回「おきなわの観光」意見発表コンクールで優秀賞、優良賞、学校特別賞受賞

7月24日、沖縄かりゆしアーバンリゾートで行われた第8回「おきなわの観光」意見発表コンクールにて、本学学生2名が本選に出場しました。

専門学校及び大学校の部で、企業システム学科3年次の比嘉宏美さん（浦添商業高校出身）が「中国人修学旅行生を沖縄に呼び込みリピーター獲得へ」で優秀賞、地域環境政策学科3年次の東竹西愛美さん（西原高校出身）が「これからの沖縄に必要なもの」で優良賞を受賞しました。

また、沖縄国際大学が団体部門で学校特別賞に選ばれ、大学を代表して照屋寛之副学長が授賞式に参加しました。

写真左側より比嘉宏美さん、照屋寛之副学長、東竹西愛美さん

学生紹介

第55回全日本学生空手道選手権大会「男子個人形の部」において全国制覇！

平成23年7月3日、東京の日本武道館で開催された第55回全日本学生空手道選手権大会・東西対抗戦・男子個人形の部において、本学総合文化学部英米言語文化学科3年次の喜友名諒君（興南高校出身）が初優勝を飾りました。予選を勝ち上がった8選手による決勝トーナメントでも全3試合（決勝含む）で5－0と圧倒的な強さを発揮しました。

7月11日に、池宮城拓空手部監督と共に、富川盛武学長を表敬訪問し、喜友名君は「毎日5時間、365日練習している。世界選手権も視野に、今後も稽古を続けていきたい。」と抱負を語りました。

本学のOBでもある池宮城監督は「これを機に沖縄国際大学と空手部を盛り上げて欲しい。空手部には、良い選手が集まっているので、今後も楽しみ。」と語りました。

富川学長は「日本一は本学の快挙。世界選手権出場に向けて、これからも頑張って欲しい。ぜひ後輩たちにもつなげて欲しい。」と激励しました。

学長へ優勝報告を行う喜友名君と池宮城監督

英米言語文化学科３年次 喜友名諒（写真中央）

学生インタビュー　沖縄県警察官Aに合格した久貝拓也さんにインタビューを行いました。

法学部
地域行政学科　４年次
久貝 拓也（くがい たくや）
（浦添高校出身）

警察官を目指したきっかけ

私は小学生の頃に、空き巣の被害に遭いました。その際に親身になって対応し、そして犯人を逮捕して下さった警察官を見て、強い憧れを抱きました。それから、私も自然と警察官を志すようになり、犯罪に巻き込まれる人を少しでも減らしたいと思うようになったのがきっかけです。

どのように学習したか

私は大学三年次から本格的に勉強をしました。私の周りにも公務員を目指す人たちがいたので、共に図書館で勉強したり、塾に通ったりしました。また、大学で行っている二次対策講座も受講しました。

後輩へメッセージ

まず一次試験の筆記試験で大分ふるいにかけられるので、一次の筆記試験の対策はしっかりしておくべきだと思います。特に数的判断は、非常に重要です。二次試験対策は独学では困難だと思うので、大学や塾などの対策講座を受講するなどして対策することをおすすめします。最も大事なことは、「警察官になりたい！」という強い意志ですので、最後まで諦めずに頑張ってください。

二次対策講座の様子

あじまー35　※あじまー：沖縄方言で交差点の意　卒業生から後輩へのメッセージのコーナー

あじまー35は、税理士資格を取得しました呉屋悟空さんにご登場いただきました。

○税理士を目指したきっかけ

もともと実家が自営業で、母親が確定申告書を作成しているのを見て自分も手伝いがしたいという思いがきっかけだと思います。私は高校卒業後、一浪したものの大学には行かない選択をしました。大企業に就職するのではなく、将来独立するのであれば大学に行く必要はないと当時考えたからです。理数系に強い私は、自分の力で独立できる税理士になろうと決意しました。

○仕事と勉強（税理士試験＆大学院）の両立

私がこだわったのは、働きながらの資格取得です。税理士事務所に就職した私は実務能力を身につけながら、税理士試験に合格する予定でしたが、試験前に繁忙期となる税理士事務所ではなかなか合格には至りません。ついに私は39歳の時に長年務めた税理士事務所を退職し、勉強時間のとれる一般企業に転職することにしました。転職後、沖縄国際大学大学院に入学し、同時に税理士試験の科目合格を目指します。当初の予定では、1年次に科目合格し、２年次でゆとりをもって論文を書き上げるつもりでしたが、1年次に科目合格することができませんでした。そこで2年次は選択を迫られることになります。税理士試験を優先して卒業を1年延ばすか、卒業を優先して税理士試験を来年に延ばすかという選択です。しかし、ここで期限を延ばすわけにはいきません。最後のチャレンジだと思って転職までしたのですから。そこで8月までは税理士試験に集中し、試験以降は修士論文に集中する第三の選択肢を選びました。無茶な選択だったかもしれませんが私には勝算がありました。税理士試験については、不合格ではあったもののA判定だったこと、修士論文については、東亜大学大学院で税法の修士論文を書き上げた実績があることです。結果は税理士試験にも科目合格し、修士論文も無事完成させ、予定通り２年間で修了することができました。

○合格するまでに努力したこと

努力には工夫が必要です。がむしゃらに時間をかけるだけでは目標達成することはできません。まずは時間の使い方です。やらなければならない大事なことは1日の一番最初にやるべきです。私の場合は勉強でしたので朝４時に起きたら、とにかくすぐ机に向かいました。新聞やテレビを見てはいけません。余計な情報が後々頭をよぎり勉強に集中できなくなります。頭を使わない家事も夜にやります。目の前に汚れた皿があるからといって勉強よりも先に皿を洗ってはいけません。次に周囲の人に協力してもらう必要があります。勉強するからといって、家事や子供とのコミュニケーションを疎かにすると、家族からの反対により目標達成を断念することになります。環境づくりは目に見えないですが、努力すべき大事なことです。

○大学院を目指す人たちに伝えたいこと

何より目的意識を持って大学院に入学して欲しいと思います。私の場合は働きながら、税理士試験免除の為の論文を書くことが目的でしたから、効率よく単位をとれる又は論文に直結する講義を集中して取りました。これから大学院を目指す人には、何のために大学院に通うのか、何について研究し、それが何に役立つのか、明確な目的を持ってほしいと思います。また大学院で学ぶ意義は「研究を通してその研究の答えを出す」ばかりではなく、「研究方法や学問に対する姿勢」だと思います。

呉屋 悟空（ごや ごくう）
税理士、宅地建物取引主任者

1988年3月
昭和薬科大学付属高等学校卒業
2001年9月
自由が丘産能短期大学能率科通信課程卒業
2004年3月
東亜大学大学院総合学術研究科法学専攻修了
2011年3月
沖縄国際大学大学院地域産業研究科地域産業専攻修了

今年のテーマは「絆」。私達沖国大生が

11月26日(土)・27日(日)の2日間、第40回沖国大祭が開催され、130以上の団体が様々な取り組みを行いました。今年は大震災で被災
を盛り上げてくれました。県内外のアーティストのステージ、車いすバスケット大会の開催や被災地からの避難者の方々をお招きする等

第40回 沖国大祭

大学祭実行委員長の新田亮平君（宜野湾高校出身）。実行委員と一緒に今回の大学祭の企画、準備、運営を務めました。

中東芸能クラブ

ベリーダンスで会場を盛り上げてくれました！

OKIU CONTEST

沖国大ミス、ミスターを選出しました。

ひが けいこ

本学卒業生であるひがけいこさんによる迫力あるステージ

鬼慶良間（オニゲラマ）

日文1年次が毎年開催し、20年を迎えた民話劇。年々パワーアップしています。

バルーンアート

部員も増えて、制作6時間も掛けた巨大オブジェを出展しました。

ゆいリンク

大震災で沖縄県に避難された方々をお招きして、一緒に楽しもう！と企画しました。

車イス バスケ

学生団体Inspireが障がい者に対する理解や社会福祉を考える機会として企画しました。

ワンダーフォーゲル

教室の中に沖縄の自然や山道を再現して楽しんでもらいました。

沖縄を明るくし、日本を元気にします！

災された方々や地域のために、「みんなが笑顔になることで、沖縄を明るくし、日本を元気にしよう！」と学生一丸となって沖国大祭等、学内外の方々と交流を行うことで新たな「絆」が生まれました。

Osyan Tea
ファッションフリーペーパーを制作し、沖縄のファッション底上げを目指しています。

琉球風車
今年も伝統エイサーを披露しました。

書道部
今年の大学祭テーマの「絆」です。

後片付けの様子
大学祭翌日、学生全体が主体的に後片付けに取り組みました。

OSSF
ダンスバトルやショーケースで観客を楽しませてくれました。

男子バスケ部
音楽やパフォーマンスで盛り上げて、お客さんと楽しみました。

平成23年度研究費交付決定額一覧

◆特別研究費

（単位：円）

No.	研究種目	所属	職名	交付決定者	研究テーマ	交付決定額
1	特定研究B	総合文化学部	教授	狩俣恵一	南島口承文芸のデジタル化とその音声論的研究方法についての研究	452,000
2	特定研究B	総合文化学部	准教授	鳥山淳	個人資料に基づく沖縄戦後史の実証的研究とその活用モデルの構築	1,808,000
3	特定研究C	法学部	教授	井村真己	リバタリアン法学からみた労働法理論の再考察	452,000
4	特定研究C	法学部	教授	田中稔	ドイツ法における抽象的損害算定	452,000
5	特定研究C	経済学部	教授	新垣武	海水中における炭酸カルシウム溶解の速度論的研究	452,000
6	特定研究C	経済学部	講師	安藤由美	投資リスクの計測方法の拡張性	452,000
7	特定研究C	産業情報学部	教授	宮森正樹	特産品・観光開発を活用した地域発展のための「まちおこし」	1,356,000
8	特定研究C	産業情報学部	教授	兪炳強	中国北方農牧交差地帯における農家経営の展開とその要因に関する追跡調査研究	452,000
9	特定研究C	総合文化学部	教授	兼本敏	ベッテルハイム『英琉辞書』の再編纂	452,000
10	特定研究C	総合文化学部	教授	李イニッド	日米・日中・米中コミュニケーションにおけるジェスチャーの記号化と解読について	452,000
11	特定研究C	総合文化学部	教授	江上幹幸	インドネシア、ラマレラ村における伝統捕鯨文化の変容	452,000
12	特定研究C	総合文化学部	教授	上田幸彦	在宅難病患者・障害者の心理的支援に関する研究	295,000
13	特定研究C	総合文化学部	教授	小柳正弘	社会福祉の現場の援助者における「ささえあい」の原理と倫理に関する倫理学的研究	790,000
14	奨励研究	法学部	准教授	坂本達也	従属会社の少数株主等の保護と規制に関する比較法的研究	325,000
15	奨励研究	法学部	准教授	吉次公介	冷戦史のなかの日本＝ビルマ「特殊」関係－戦後日本と東南アジア　1951–74	300,000
16	奨励研究	産業情報学部	准教授	木下和久	企業環境の変化とコストマネジメントへの影響	904,000
17	奨励研究	産業情報学部	講師	小渡悟	環境変動に頑健な不特定ユーザー対応3次元手指計上推定システムの構築	904,000
18	奨励研究	総合文化学部	准教授	比嘉昌哉	スクールソーシャルワークの独自の機能～アドボケーションに焦点をあてて～	904,000
19	奨励研究	総合文化学部	講師	福島賢二	教員の参加民主主義による不平等創出に関する理論研究－教職の専門性の意義確立に向けて－	904,000
20	その他の研究	法学部	教授	芝田秀幹	イギリス理想主義とドイツ観念論－B・ボサンケとG・W・Fヘーゲルを中心にして－	360,000
21	その他の研究	法学部	教授	熊谷久世	外国親子裁判とわが国の公序について	360,000
22	その他の研究	法学部	教授	武田一博	協同労働の協同組合運動と共存社会の未来に関する哲学的研究	360,000
23	その他の研究	法学部	講師	大城明子	自律的学習者の育成を目指したリメディアル英語教育について	344,000
24	その他の研究	産業情報学部	教授	鵜池幸雄	会計基準の国際的統一化の潮流と我が国の会計基準の課題	360,000
25	その他の研究	産業情報学部	教授	清村英之	会計の国際化に関する研究	346,000
26	その他の研究	産業情報学部	教授	原田優也	Global Strategies for International Education	360,000
27	その他の研究	産業情報学部	教授	安里肇	プログラミング教育における効果的なブレンディッドラーニングの研究	356,000
28	その他の研究	産業情報学部	教授	大井肇	ソーシャルメディアを活用したビジネスモデルに関する一考察	359,000
29	その他の研究	産業情報学部	教授	又吉光邦	八重山地方の古布・古裂のマイクロスコープによるデータ収集・調査研究	199,000
30	その他の研究	産業情報学部	准教授	平良直之	集団意志決定問題におけるネットワーク型評価構造の分析	360,000
31	その他の研究	産業情報学部	講師	河田賢一	本部と加盟店におけるロイヤルティシステムがコンビニエンスストア業態におよぼす影響	359,000
32	その他の研究	総合文化学部	教授	葛綿正一	太平記の文学的研究	303,000

◆科学研究費助成事業（研究代表者）

（単位：円）

No.	研究種目	所属	職名	交付決定者	研究テーマ	交付決定額
1	基盤研究B	総合文化学部	教授	西岡敏	琉球宮古方言の言語地理学的研究	2,800,000
2	基盤研究C	経済学部	教授	宮城和宏	技術特化・集中度パターンの動態的変化とイノベーション・システムに関する比較研究	1,100,000
3	基盤研究C	総合文化学部	教授	ﾄﾞﾅﾙﾄﾞ・ｸﾚｲｸﾞ・ｳｨﾙｺｯｸｽ	超長寿者に関する日常生活動作と既往歴の関連性について－ハワイ・全米・沖縄の比較－	1,100,000
4	基盤研究C	産業情報学部	教授	原田優也	日本製娯楽ソフトのポスト違法ダウンロードに関する消費行動パターンとプロセスの研究	1,600,000
5	基盤研究C	産業情報学部	准教授	池宮城尚也	ゼロ金利制約下の金融政策に関する比較実証研究	1,300,000
6	若手研究B	法学部	准教授	吉次公介	冷戦史のなかの日本＝ビルマ「特殊」関係―戦後日本と東南アジア　1951–74	700,000
7	若手研究B	経済学部	准教授	松﨑大介	貨幣経済における政府支出の財源調達と経済成長	500,000
8	若手研究B	産業情報学部	准教授	李炫延	「雁(かり)パパ」から見る韓国の教育政策の現状と今後のあり方	500,000
9	若手研究B	総合文化学部	准教授	柴崎礼士郎	主要部標示型から依存部標示型へ―歴史言語類型論から見た英語人称代名詞の特異性―	500,000
10	若手研究B	総合文化学部	准教授	澤田佳世	現代沖縄の出生力と国際結婚の諸相―多良間村にみる家族と移住女性の再生産戦略―	800,000
11	若手研究B	総合文化学部	講師	下地賀代子	消滅の危機に瀕した南琉球・多良間水納島方言の記述的研究	1,200,000

◆科学研究費助成事業（研究分担者）

No.	研究種目	所属	職名	交付決定者	研究テーマ	研究代表者
1	基盤研究A	総合文化学部	教授	江上幹幸	東南アジア古代・中世考古学の創生	鹿児島大学　新田栄治
2	基盤研究A	総合文化学部	講師	石垣直	東南アジアにおける復ゲーム状況の人類学的研究	京都大学　杉島敬志
3	基盤研究A	総合文化学部	講師	石垣直	日本を含む外来権力の重層下で形成される歴史認識―台湾と旧南洋群島の人類学的比較	東京外国語大学　三尾裕子
4	基盤研究B	法学部	教授	佐藤学	地方自治研究のパラダイム転換	山梨学院大学　今村都南雄
5	基盤研究B	法学部	准教授	上江洲純子	民事再生手続の実証的研究にかかわるフィージビリティ調査	早稲田大学　山本研
6	基盤研究B	法学部	准教授	吉次公介	1970年代の日本の政治的再編―第2の「戦後」の形成過程	獨協大学　福永文夫
7	基盤研究B	総合文化学部	教授	江上幹幸	生物地理学的視点からみた西太平洋島嶼地域の干潟文化の比較研究	宮崎公立大学　李善愛
8	基盤研究B	総合文化学部	教授	西岡敏	近世琉球社会における言語運用の諸相に関する総合的研究	琉球大学　高良倉吉
9	基盤研究B	総合文化学部	准教授	西原幹子	デジタルアーカイヴスと英国初期近代演劇研究―劇場、役者、印刷所を繋ぐネットワーク	筑波大学　加藤行夫
10	基盤研究B	総合文化学部	准教授	比嘉昌哉	スクールソーシャルワーカーの専門性向上のためのスーパービジョン・プログラムの開発	福岡県立大学　門田光司
11	基盤研究C	経済学部	准教授	友知政樹	オンライン／オフラインの社会関係資本の相互作用に関する実証研究	関東学院大学　籠谷和弘
12	基盤研究C	産業情報学部	教授	兪炳強	亜熱帯島嶼地域における赤土等流出防止プログラムの策定と地域環境保全システムの構築	琉球大学　仲地宗俊
13	基盤研究C	総合文化学部	准教授	尚真貴子	高校生の沖縄語使用についての調査・研究：消えていく言葉の中で何が残っていくか?	琉球大学　佐々木香代子

◆厚生労働省科学研究費補助金（研究分担者）

No.	研究種目	所属	職名	交付決定者	研究テーマ	研究代表者
1	労働安全衛生総合研究事業	法学部	教授	井村真己	諸外国の産業精神保健法制度の背景・特徴・効果とわが国への適応可能性に関する調査研究	近畿大学　三柴丈典

◆公益信託宇流麻学術研究助成基金

（単位：円）

No.	研究種目	所属	職名	交付決定者	研究テーマ	交付決定額
1	人文・社会科学	産業情報学部	教授	原田優也	東南アジア医療ツーリズムに関する研究	150,000
2	人文・社会科学	産業情報学部	教授	兪炳強	沖縄における観光資源の保全支援システムの構築	150,000
3	臨床・基礎医学	総合文化学部	教授	安次富郁哉	認知機能低下要因としての血漿ホモシスティン～K島住民の追跡調査結果から～	150,000

◆総務省戦略的情報通信研究開発推進制度

（単位：円）

No.	研究種目	所属	職名	交付決定者	研究テーマ	交付決定額
1	地域ICT振興型研究開発	産業情報学部	教授	又吉光邦	疑似ランダムビット列生成器暗号化システムの研究開発	1,536,000

◆トヨタ財団研究助成プログラム

（単位：円）

No.	研究種目	所属	職名	交付決定者	研究テーマ	交付決定額
1		総合文化学部	教授	江上幹幸	インドネシア、ラマレラ村における伝統捕鯨文化の変容	1,020,000

本学教員　出版物紹介

稲福日出夫(法律学科)
①著書名　日本国憲法 ― 主権･人権･平和 ―
②著者名　稲福日出夫
③出版社　ミネルヴァ書房
④発行年月　2010年11月20日
⑤共著

田中　稔(法律学科)
①著書名　不動産登記法の解説
②著者名　田中　稔
③出版社　ネットスクール
④発行年月　2011年9月
⑤単著

芝田秀幹(法律学科)
①著書名　マテイ･ドガン著『比較政治社会学の新次元』
②翻訳　櫻井陽二･外池力･芝田秀幹
③出版社　芦書房
④発行年月　2011年8月
⑤共訳

山下　良(法律学科)
①著書名　エッセンシャルビジネス法務
②著者名　藤川 信夫･松嶋 隆弘編著
③出版社　芦書房
④発行年月　2011年5月
⑤共著

佐藤　学(地域行政学科)
①著書名　普天間基地問題から何が見えてきたか
②著者名　宮本憲一、西谷修、遠藤誠治編
③出版社　岩波書店
④発行年月　2010年12月
⑤共著

①著書名　新しい公共と自治の現場
②著者名　寄本勝美、小原隆治編
③出版社　コモンズ
④発行年月　2011年1月
⑤共著

①著書名　「沖縄問題」とは何か
②著者名　藤原書店編集部編
③出版社　藤原書店
④発行年月　2011年2月
⑤共著

吉次公介(地域行政学科)
①著書名　日米同盟はいかに作られたか
②著者名　吉次公介
③出版社　講談社
④発行年月　2011年9月10日
⑤単著

武田一博(地域行政学科)
①著書名　共生と共同、連帯の未来―21世紀に託された思想
②出版社　青木書店
③発行年月　2009年8月20日

清村英之(企業システム学科)
①著書名　簿記が基礎からわかる本−中級レベルまで
②著者名　清村英之
③出版社　同文舘出版
④発行年月　2011年9月30日
⑤単著

河田賢一(企業システム学科)
①著書名　マーケティング戦略論
②著者名　西田安慶･城田吉孝編著
③出版社　学文社
④発行年月　2011(平成23)年4月30日
⑤共著

又吉光邦(産業情報学科)
①著書名　琉天―古琉球紅型型紙による「うちゅくい」の再生―
②著者名　佐久本邦華、又吉光邦
③出版社　株式会社沖縄教販
④発行年月　2011年5月1日
⑤共著

西岡　敏(日本文化学科)
①著書名　日本の危機言語 ― 言語･方言の多様性と独自性
②著者名　呉人 恵　編
③出版社　北海道大学出版会
④発行年月　2011年6月25日
⑤共著　第9章　琉球語 ― 「シマ」ごとに異なる方言

柴崎礼士郎(英米言語文化学科)
①著書名　Japanese/Korean Linguistics 18
②著者名　William McClure & Marcel den Dikken (eds.)
③出版社　CSLI Publications
④発行年月　2011年2月
⑤共著

①著書名　言語の間主観性―認知・文化の多様な姿を探る
②著者名　武黒麻紀子(編)
③出版社　早稲田大学出版部
④発行年月　2011 年 3 月
⑤共著

山本直子(英米言語文化学科)
①著書名　現代インド英語小説の世界
②著者名　山本直子
③出版社　鳳書房
④発行年月　2011 年 4 月 29 日
⑤共著

石垣　直(社会文化学科)
①著書名　馬淵東一と台湾原住民族研究
②著者名　笠原政治編著
③出版社　風響社
④発行年月　2010 年 12 月 15 日
⑤共著

①著書名　現代台湾を生きる原住民―ブヌンの土地と権利回復運動の人類学
②著者名　石垣 直
③出版社　風響社
④発行年月　2011 年 2 月 20 日
⑤単著

三村和則(人間福祉学科)
①著書名　Lesson Study in Japan
②著者名　日本教育方法学会編
③出版社　渓水社
④発行年月　2011 年 9 月 20 日
⑤共著

上田幸彦(人間福祉学科)
①著書名　ストレス科学事典
②著者名　上田幸彦
③出版社　実務教育出版
④発行年月　2011 年6月 10 日
⑤共著

平成22年度事業報告（個別業務計画各事業の抜粋）の開示

私立大学法第47条第2項に基づき、平成22年度の本学事業内容を開示いたします。本学は今後も「地域の私立大学として」、見学の理念・目的、教育目標を前提に、自主的・主体的に教育水準の改善向上を図り、健全な経営に向けて継続的に取り組んで参ります。（紙面の都合から抜粋といたしました。全文は、大学Webページで公開しておりますので、そちらもご覧いただければ幸いに存じます。

1．教育・研究関係

（1）教務

2010 年度を本学の FD 元年とし、従来の授業評価アンケート実施に加え、教育支援者（TA・SA）制度、授業改善計画、FD 支援プログラムの導入、FD 研修会の開催を行い組織的 FD 活動の推進を図った。

教員免許状更新講習として 10 講座（開設は 18 講座）を開講し、216 名が受講した。

（2）国際化に関する事業

国外協定校との交流事業について、国外協定校短期留学を４大学（東海大学・韓南大学・澳門大学・レンヌ第２大学）で、海外語学･文化セミナーを３大学（東海大学・韓南大学・マッコーリー大学）での間で派遣事業を実施した。

2．学生関係

（1）就職活動の支援

人材関連企業と提携し、首都圏での就職活動を支援する「沖縄国際大学就職活動サポートセンター」を、東京都文京区に開設した。提携先企業による首都圏就職活動の現況解説や就職指導、相談業務を行い県外就職を希望する学生の支援を行った。

3．情報化関係

（1）図書館関連事業

図書館の各種サービスや効率的な情報検索方法の紹介を目的に、ステップアップガイダンス（「論文検索」及び「就活に役立つ図書館活用」）を前期 6 回、後期 8 回の全 14 回開催し、136 人が受講した。

（2）情報センター関連事業

PC 教室（5−117、118）124 台のシステムの入替を行い、学生の PC 用環境の向上を図った。

図書館 DB（データベース）検索端末 3 台、大学院用心理実験実習室 PC1 台、ボランティア支援室ノートテイク用モバイル PC5 台（新規）の導入を行なった。

4．管理運営・施設関係

（1）内部監査の実施

内部監査担当者による平成 22 年度定期監査を実施した。年度前期では「平成 21 年度予算・執行実績差異調書」に基づき各課長と内部監査担当者が意見交換を行い、年度後期では業務監査及び会計監査を実施した。

（2）情報公開、管理

大学ウェブサイトでは、大学内の活動をリアルタイムに伝えるために、ニュース・トピックスに活動報告をできるだけ早いタイミングで掲載することを心がけた。また、学部案内、大学院案内のページをリニューアルし、目次を配置する等の工夫を行った。

（3）施設設備

厚生会館 3 階のトイレに身障者トイレを設置した。新しく設置した身障者トイレにウォシュレットを完備し、車イス利用者や身体不自者の利便性を高められるよう配慮した。

平成22年度　決算報告書

【財務の概要】

大学を取り巻く環境の変化は大学経営に大きな影響を及ぼしています。平成22年度の全国私立大学の定員充足率をみると、全国4年制大学の38.1%、短期大学の62.5%の学校が定員割れとなりました。外部環境の変化に着目すると、沖縄の私学においても18歳就学人口の激減、私立大学等経常費補助金の減少など、全国と同様に厳しい状況下にあります。特に今時の経済環境の変化は、学生が経済的困窮に追い込まれるなど予期せぬ事態を招来し、受験生の減少に拍車をかける状況となっています。このため、本学も社会的責務を果たす観点から、学資支弁の方策を打ち出し、大学進学の門を閉ざすことなく学生の自己実現機会の確保に向けて取り組んでいます。また、内部環境の変化としては、教職員の高齢化による人件費の増大、非常勤教員への依存、校舎等建物の老朽化、情報機器等の運営管理と整備、環境問題への対応などの諸課題が挙げられ、何れも財政と直結しています。

このように、近年の私立大学を取り巻く経営環境は急速に変化しており、大学間競争が激化する中で、本学が常に優位性を保ち続けるためには、教育・研究の質的充実・向上を図るとともに、財政基盤の強化に努めていかなければなりません。将来に向けた財政的余力を残しつつ教育研究活動の成果を拡大すること、即ち、財政と教育研究活動の巧みなバランスをとることが従前にも増して重要となっています。

以上のことを鑑み、本学はこれまで「中長期財政計画」を策定して財政運営を行ってきました。また、平成19年度からは、厳しい運営環境の変化に対応し得る恒常的かつ健全な大学経営を維持・発展させるための総合的な計画(財政計画・経営計画)である「中長期経営計画」を本学運営の基本方針とし、本年度はその4年度目として新規事業・継続事業を企画し実行しました。

「中長期経営計画」では、本学運営の基本計画を、個別構造計画(戦略的意思決定)と個別業務計画(戦術的意思決定)に大別して5カ年間の経営計画(平成19年度～23年度)を策定しており、財政運営は、当該5ヶ年経営計画に沿った次の6項目を基本方針としています。

(1)本学の理念・目的の実現に向けて、学部及び大学院の教育研究の質的な充実・向上に努める。
(2)収支均衡の財政運営を図る。
(3)借入金に依存しない財政運営を図る。
(4)自己資金で調達できる限度内での施設設備の投資を行う。
(5)各課の経常予算要求額は、原則として過去3年間の決算額の平均額とする。
(6)環境対応のしくみを構築し、省資源、省エネルギーを推進する。

平成22年度の決算は、中長期経営計画・事業計画及び予算編成の基本方針に基づく平成19年度～平成23年度の4年目となる財務状況です。経年的経費、継続事業、新規事業等に対する実効性の高い予算配分を行うとともに過去の実績を踏まえた経費節減に努め、財政基盤の健全性の維持・向上に努めました。

その結果、節減を要すべき経費(旅費交通費、印刷製本費、会合費)については、一定の節減成果を得ました。しかし、全学的な意識の喚起を図りつつありますが、教育活動目的、学生活動目的及び情報化に係る教育充実など、教学内容の質的向上を図る上で有効に執行すべき経費(施設設備賃借料、業務委託費、研究助成費等)や資産運用支出において未執行額が今年度も発生しました。ただし、資産運用支出については、現下の社会情勢等も踏まえ、なお慎重に対応する必要があります。

以下に、平成22年度の財務状況(資金収支計算書、消費収支計算書及び貸借対照表)、及び直近6カ年間の消費収支並びに貸借対照表財務比率の推移を掲げます。

なお、この計算書は学校法人会計基準(昭和46年4月1日文部省令第18号)に従い作成しており、様式は補助金交付基準に基づく表示区分になっています。

【資金収支計算書】

資金収支計算書は、当該会計年度の収入及び教育研究並びにその他諸活動に使用したすべての資金収支の内容等を明らかにしたものです。

資金収支計算書（自平成22年4月1日至平成23年3月31日）（単位：円）

収入の部

科目	予算	決算	差異	
学生生徒等納付金収入	4,746,663,000	4,764,324,600	△ 17,661,600	①
手数料収入	80,075,000	79,599,870	475,130	②
寄付金収入	49,200,000	52,500,000	△ 3,300,000	③
補助金収入	427,634,000	474,821,200	△ 47,187,200	④
資産運用収入	69,671,000	74,556,264	△ 4,885,264	⑤
資産売却収入	0	0	0	
事業収入	16,642,000	16,325,762	316,238	⑥
雑収入	98,542,000	98,553,238	△ 11,238	⑦
借入金等収入	0	0	0	
前受金収入	2,082,131,000	1,954,707,115	127,423,885	⑧
その他の収入	1,387,765,120	1,361,895,943	25,869,177	
資金収入調整勘定	△ 2,059,428,915	△ 2,071,898,381	12,469,466	
前年度繰越支払資金	9,772,159,444	9,772,159,444		
収入の部合計	16,671,053,649	16,577,545,055	93,508,594	

支出の部

科目	予算	決算	差異	
人件費支出	2,632,060,753	2,564,818,185	67,242,568	⑨
教育研究経費支出	1,402,753,000	1,253,933,762	148,819,238	⑩
管理経費支出	253,454,440	225,266,219	28,188,221	⑪
借入金等利息支出	19 900,000	19 900,000	0	
借入金等返済支出	100,280,000	100,280,000	0	
施設関係支出	26,652,000	15,870,330	10,781,670	⑫
設備関係支出	285,157,000	268,264,266	16,892,734	⑬
資産運用支出	639,508,000	439,558,000	199,950,000	⑭
その他の支出	1,193,586,783	1,187,218,422	6,368,361	
予備費	28,662,807		28,662,807	⑮
資金支出調整勘定	△ 199,677,000	△ 202,320,009	2,643,009	
次年度繰越支払資金	10,288,715,866	10,704,178,780	△ 415,462,914	
支出の部合計	16,671,053,649	16,577,545,055	93,508,594	

【資金収支決算概要】

①学生生徒等納付金収入のうち、授業料収入及び施設設備資金収入の予算額は、当初予算編成時に、延納者数などについて過去の実績を見込んだ下方調整や入学者実績に基づく予算補正を行ったため、結果として収入増となりました。
②手数料収入のうち入学検定料は、受験者数の減少により収入減となりました。
③寄付金収入のうち特別寄付金収入は、個人寄付金(奨学金)の増額により収入増となりました。
④補助金収入のうち経常費補助金収入では、特別補助の申請数増加により増額となりました。
⑤資産運用収入は、有価証券等の資産運用と金利が比較的安定して推移した他、施設利用料が増加し、収入増となりました。
⑥事業収入は、受託事業収入が確保されたことから、ほぼ予算どおりの収入となりました。
⑦雑収入は、ほぼ予算どおりの収入となりました。
⑧前受金収入は、予算額に対して大幅な減額となりました。その要因は、依然として経済的理由による学費未納者の増加傾向によるものです。
⑨人件費支出は、専任教員数(未採用)、専任職員無給休暇、非常勤教員および非常勤職員給与費等における予測誤差、退職金支出については中途退職者による予測誤差で、予備費使用となりました。
⑩教育研究経費支出は、節減効果(旅費交通費、印刷製本費、会合費等)と教育の質的向上を図るための有効に執行すべき経費(施設設備賃借料、業務委託費、研究助成費等未執行)による差異となりました。
⑪管理経費支出は、節減効果及び未執行による差異となりました。
⑫施設関係支出は、大学所有地保全工事に伴う経費振替による残額。
⑬設備関係支出は、図書費の未執行による残額。
⑭資金運用支出は、社会情勢が混迷し金融商品の安全性が低下した事から、一部運用を見合わせました。
⑮予備費の主な支出は、中途退職による教員退職金支出と大学所有地保全工事に伴う修繕費等によるものです。

【消費収支計算書】

消費収支計算書は、当該会計年度の消費収入内容及び執行状況を示し、学校法人の経営状況を明らかにしたものです。

消費収支計算書（自平成22年4月1日至平成23年3月31日）（単位：円）

消費収入の部

科目	予算	決算	差異	
学生生徒等納付金	4,746,663,000	4,764,324,600	△ 17,661,600	
手数料	80,075,000	79,599,870	475,130	
寄付金	51,600,000	55,996,183	△ 4,396,183	
補助金	427,634,000	474,821,200	△ 47,187,200	
資産運用収入	69,671,000	74,556,264	△ 4,885,264	
資産売却差額	0	0	0	
事業収入	16,642,000	16,325,762	316,238	
雑収入	98,542,000	98,553,238	△ 11,238	
帰属収入合計	5,490,827,000	5,564,177,117	△ 73,350,117	⑯
基本金組入額合計	△ 467,809,000	△ 434,569,503	△ 33,239,497	⑰
消費収入の部合計	5,023,018,000	5,129,607,614	△ 106,589,614	⑱

消費支出の部

科目	予算	決算	差異	
人件費	2,597,367,753	2,548,607,106	48,760,647	
教育研究経費	1,827,858,000	1,684,217,907	143,640,093	
管理経費	286,928,440	259,968,375	26,960,065	
借入金等利息	19,900,000	19,900,000	0	
資産処分差額	1,506,000	13,205,147	△ 11,699,147	
予備費	28,662,807		28,662,807	
消費支出の部合計	4,762,223,000	4,525,898,535	236,324,465	⑱
当年度消費収入超過額	260,795,000	603,709,079		⑱
前年度繰越消費収入超過額	3,384,034,486	3,384,034,486		
翌年度繰越消費収入超過額	3,644,829,486	3,987,743,565		⑱

【消費収支決算概要】

⑯帰属収入合計は、当初予算編成時に、学生生徒等納付金等の算定根拠となる学生数、受験者の減少を見込んだ下方調整や入学者実績に基づく予算補正を行ったため、結果として収入増となりました。但し、検定科収入については、志願者の実質減により減収となりました。
⑰基本金組入額は、借入金返済に係る組入れ、スポーツ奨励基金（第３号基本金）の組入れ 、および第4号基本金の組入れを行いました。
⑱消費収入の部は、帰属収入の学生生徒納付金収入、補助金収入が増額となり、消費支出の部において、旅費交通費、印刷製本費、会合費等経費の節減と研究活動、学生活動、情報化に係る経費等の大幅な未執行が並行して発生したため、当年度消費収入超過額が予算を上回る結果となり、翌年度繰越消費収入超過額は更に累積し3,987,797千円となりました。

【貸借対照表】

貸借対照表（平成23年3月31日現在）（単位：円）

貸借対照表は、当該会計年度決算時点における財政状態を明らかにしたものです。

【資産の部】

科　目	本年度末	前年度末	増　減
固定資産	16,571,431,488	16,593,068,809	△ 21,637,321
有形固定資産	10,866,248,445	11,056,870,486	△ 190,622,041
土地	1,622,988,150	1,622,988,150	0
建物	5,894,975,967	6,179,119,330	△ 284,143,363
構築物	369,103,581	393,814,699	△ 24,711,118
教育研究用機器備品	567,599,689	518,401,136	49,198,553
その他の機器備品	33,594,389	30,155,322	3,439,067
図書	2,372,380,923	2,309,794,299	62,586,624
車輌	5,605,746	2,597,550	3,008,196
その他の固定資産	5,705,183,043	5,536,198,323	168,984,720
電話加入権	2,550,798	2,550,798	0
有価証券	239,989,958	489,989,958	△ 250,000,000
長期貸付金	0	80,000	△ 80,000
退職給与引当特定預金	963,000,000	913,000,000	50,000,000
校舎建築引当特定預金	850,139,567	850,139,567	0
減価償却引当特定預金	2,488,214,789	2,127,566,789	360,648,000
金秀奨学金引当特定預金	1,100,000	1,200,000	△ 100,000
平敷奨学金引当特定預金	100,000	200,000	△ 100,000
久高奨学金引当特定預金	200,000	300,000	△ 100,000
長濱奨学金引当特定預金	5,880,000	6,180,000	△ 300,000
波平博士課程奨学金引当特定預金	1,900,000	1,900,000	0
山城大学院奨学金引当特定預金	800,000	900,000	△ 100,000
文爾留学支援奨学金引当特定預金	2,859,000	2,859,000	0
学生サポート奨学金引当特預金	3,980,802	4,130,802	△ 150,000
校友会教育備品費引当特定預金	9,750,900	9,250,900	500,000
後援会奨学金引当特定預金	2,070,000	2,005,000	65,000
校友会奨学金引当特定預金	1,750,000	3,050,000	△ 1,300,000
第3号基本金引当資産	1,130,814,379	1,120,814,379	10,000,000
預託金	82,850	81,130	1,720
流動資産	10,826,857,194	9,915,994,970	910,862,224
現金預金	10,704,178,780	9,772,159,444	932,019,336
未収入金	118,108,466	135,119,120	△ 17,010,654
貯蔵品	2,593,368	1,942,006	651,362
前払金	1,896,580	6,494,400	△ 4,597,820
短期貸付金	80,000	280,000	△ 200,000
資産の部合計	27,398,288,682	26,509,063,779	889,224,903

【負債の部】

科　目	本年度末	前年度末	増　減
固定負債	1,842,987,776	1,959,278,855	△ 116,291,079
長期借入金	500,000,000	600,080,000	△ 100,080,000
退職給与引当金	1,342,987,776	1,359,198,855	△ 16,211,079
流動負債	2,416,377,152	2,449,139,752	△ 32,762,600
短期借入金	100,080,000	100,280,000	△ 200,000
未払金	197,449,209	225,498,783	△ 28,049,574
前受金	1,954,707,115	1,953,789,915	917,200
預り金	164,140,828	169,571,054	△ 5,430,226
負債の部合計	4,259,364,928	4,408,418,607	△ 149,053,679

【基本金の部】

科　目	本年度末	前年度末	増　減
第1号基本金	16,852,226,243	16,483,656,740	368,569,503
第2号基本金	850,139,567	850,139,567	0
第3号基本金	1,130,814,379	1,120,814,379	10,000,000
第4号基本金	318,000,000	262,000,000	56,000,000
基本金の部合計	19,151,180,189	18,716,610,686	434,569,503

【消費収支差額の部】

科　目	本年度末	前年度末	増　減
翌年度繰越消費収入超過額	3,987,743,565	3,384,034,486	603,709,079
消費収支差額の部合計	3,987,743,565	3,384,034,486	603,709,079

科　目	本年度末	前年度末	増　減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	27,398,288,682	26,509,063,779	889,224,903

注記

1．重要な会計方針

（1）引当金の計上基準

●徴収不能引当金
未収入金の徴収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能見込み額を計上している。

●退職給与引当金
退職金の支給に備えるため、期末要支給額1,254,205,557円を基にして、私立大学退職金財団に対する掛金の累計額と交付金の累計額との繰入れ調整額を加減した金額の100%を計上している。

（2）その他の重要な会計方針

●有価証券の評価基準及び評価方法
移動平均法に基づく原価法である。

●たな卸資産の評価基準及び評価方法
最終仕入原価法に基づく原価法である。

2．重要な会計方針の変更等
（会計処理の変更）
「リース取引に関する会計処理について（通知）」（20高私参第2号）及び「ソフトウェアに関する会計処理について（通知）」（20高私参第3号）の発出に伴い、当会計年度から当該通知によっている。なお、この変更による計算書類に与える影響はない。

3．減価償却額の累計額の合計額　6,675,137,651円

4．徴収不能引当金の合計額　0円

5．担保に供されている資産の種類及び額
担保に供されている資産の種類及び額は、次のとおりである。
土地（学校用地）20,707㎡　168,051,018円

6．翌会計年度以後の会計年度において基本金への組入れを行うこととなる金額　600,430,500円

7．その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

（1）有価証券の時価情報

	勘定科目	当年度（平成23年3月31日）		
		貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	有価証券	(220,000,000)	242,140,000	22,140,000
	第3号基本金引当資産	(99,980,000)	104,470,100	4,490,100
（うち満期保有目的の債券）	有価証券	(200,000,000)	(208,240,000)	(8,240,000)
	第3号基本金引当資産	(99,980,000)	(104,470,100)	(4,490,100)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	有価証券	19,989,958	14,535,000	△ 5,454,958
	第3号基本金引当資産	0	0	0
（うち満期保有目的の債券）	有価証券	(0)	(0)	(0)
	第3号基本金引当資産	(0)	(0)	(0)
合計	有価証券	239,989,958	256,675,000	16,685,042
	第3号基本金引当資産	99,980,000	104,470,100	4,490,100
（うち満期保有目的の債券）	有価証券	(200,000,000)	(208,240,000)	(8,240,000)
	第3号基本金引当資産	(99,980,000)	(104,470,100)	(4,490,100)

（2）偶発債務
該当なし

（3）所有権移転外ファイナンス・リース取引
通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っている所有権移転外ファイナンス・リースは、次のとおりである。

①平成21年4月1日以降に開始したリース取引
該当なし

②平成21年3月31日以前に開始したリース取引

リース資産の種類	リース料総額	未経過リース料期末残高
教育研究用機器備品	333,256,237円	114,601,223円
その他の機器備品	29,064,134円	5,158,483円

（4）関連当事者との取引
該当なし

※　この貸借対照表は、学校法人会計基準（昭和46年4月1日文部省令第16号）に従い作成しており、様式は補助金交付の観点からの表示区分になっています。

学内人事

産業情報学部
産業情報学科講師
丸　山　友希夫
（まるやま　ゆきお）

【採用】教育職員　平成23年9月20日付

最終学歴：帝京科学大学大学院　理工学研究科
博士後期課程　先端科学技術専攻　修了
博士（先端科学技術）
担当科目：情報科学，情報処理基礎　など

新任にあたっての一言

千葉県生まれ千葉県育ちの生粋の千葉っこです。沖縄の文化に触れながらガンバっていこうと思います。よろしくお願いいたします。

【昇任】教育職員　平成23年10月1日付

新職名	氏　名	旧職名
総合文化学部教授	安次富郁哉	総合文化学部准教授

【昇任】事務職員　平成23年7月1日付

新職名	氏　名	旧職名
総務部総務課長補佐	呉屋賢剛	総務部総務課係長
教務部学務課長補佐	岸本博樹	教務部学務課係長

【配置換】事務職員　平成23年7月1日付

新職名	氏　名	旧職名
入試センター係長	上間勝彦	総務部広報企画課係長
総務部広報企画課主任	高江洲秀樹	教務部学務課主任
教務部学務課主任	幸地　良	入試センター主任

2012（平成24）年度 入学試験日程

	一般入学試験		センター入学試験		特別・編入
	前期日程	後期日程	前期日程	後期日程	後期日程
出願期間	2012年1月4日(水) ～1月11日(水)	2012年2月16日(木) ～2月21日(火)	2012年1月13日(金) ～1月19日(水)	2012年2月16日(木) ～2月21日(火)	2012年1月4日(水) ～1月11日(水)
入学試験日	2012年2月1日(水) ★法律学科 ★経済学科 ★企業システム学科 ★英米言語文化学科 ★社会文化学科 ★人間福祉学科 （心理カウンセリング専攻） ★専門・総合選抜試験 （経済学部/産業情報学部） 2012年2月2日(木) ★地域行政学科 ★地域環境政策学科 ★産業情報学科 ★日本文化学科 ★人間福祉学科 （社会福祉専攻）	2012年 3月4日（日） 全学部・全学科 小論文・面接	大学入試センター試験実施日 2012年 1月14日（土）・15日（日） ※個別試験は課さない		2012年 2月2日（木） 全学科・全学部
合格発表	2012年2月15日(水)	2012年3月12日(月)	2012年2月15日(水)	2012年3月12日(月)	2012年2月15日(水)

2012年度AO入学試験実施

2012年度AO入試の出願期間は8月1日（月）～8日（月）で、志願者数は973名でした。第2次審査（面談審査）は、第1次審査（書類審査）の合格者730名を対象に9月9日（金）～12日（月）に実施し、10月5日（水）に最終合格者423名を発表しました。

最も倍率の高かったのは、人間福祉学科心理カウンセリング専攻の3.81倍、次いで企業システム学科の2.88倍、英米言語文化学科の2.80倍の順となりました。全体の倍率は2.30倍でした。

学科	募集人員	志願者数	第1次審査合格者数	最終審査合格者数	倍率	前年度倍率
法律	33	78	58	41	1.90	1.69
地域行政	33	107	63	40	2.68	3.22
経済	34	53	53	42	1.26	2.21
地域環境政策	34	105	68	42	2.50	1.60
企業システム	34	115	84	40	2.88	2.46
産業情報	34	94	77	40	2.35	2.09
日本文化	33	81	81	46	1.76	1.74
英米言語文化	36	126	80	45	2.80	1.98
社会文化	24	62	49	30	2.07	1.63
人間福祉（社会福祉）	24	49	43	30	1.63	1.81
人間福祉（心理カウンセリング）	22	103	74	27	3.81	2.77
総計	341	973	730	423	2.30	2.11

オープンキャンパス実施

2011年度のオープンキャンパス（7月3・24日、10月23日）及びミニオープンキャンパス（6月17日）は今年も盛況のうちに終了しました。

オープンキャンパス参加者数は3日間で延べ総数4231名（学科紹介2271名　体験講座1960名）、ミニオープンキャンパスでは延べ130名の方々に参加頂きました。

アンケートでも好評だった在学生ガイドによるキャンパスツアーを始め、北部地区学生を対象にしたシャトルバスの運行（本学←→名護）、来場者には沖国大トートバッグやスコーンセット等の配布、学食や学内カフェの出店等、昨年にも増して参加者に満足してもらえる内容を目指しました。

各学科の学科紹介や体験講座では、午前午後に1コマずつ設定していますので、興味のある学科に複数回参加出来ます。また、産業情報、日本文化、英米言語文化、人間福祉学科の学科長や在学生の協力による学科ブースも設置し、より深く学科のことを身近に学べる内容でした。

その他にも、各サークルによる企画展示や実際の部活動を見学してもらうことで、学生生活の一端を見てもらうことが出来ました。

お昼のアトラクションでは、「琉球風車」や「鼓舞楽団浦風」のエイサー演舞、「バルーンアートクラブ」によるバルーンアート実演、「吹奏楽部」有志のアンサンブルや「中東芸能クラブ」のベリーダンス、「OSSF」のストリートダンス等、各サークルが趣向を凝らしたパフォーマンスを披露し、多くの見学者を楽しませてくれました。

「OSSF」のダンスパフォーマンスは、とりわけ好評でした。

本学学生と教職員が一丸となって取り組む姿を見てもらうことで、より本学進学を希望してもらえるようなオープンキャンパスを目指し、これからもアンケート等で寄せられた多くの声に応えていきたいと思います。

大学院9月入学試験実施

9月25日（日）、大学院の9月入学試験が実施されました。選考の結果、地域文化研究科6名、地域産業研究科3名、法学研究科4名の計13名が合格となりました。

2012年2月12日（日）には、2月入学試験が実施されます。現在、入試要項及び大学院案内を入試センターにて配布しています。詳細については、入試センター(TEL:098-893-8945　E-mail:entchr@okiu.ac.jp)へお問い合わせ下さい。

大学院入学試験日程（2月試験）

出願期間：2012年1月16日（月）～1月23日（月）
入学試験日：2012年2月12日（日）
合格発表日：2012年2月21日（火）午前11時

【沖縄国際大学　学報第97号】
2011年12月27日　総務部　広報企画課発行（〒901-2701　沖縄県宜野湾市宜野湾二丁目6番1号）　印刷：㈱尚生堂

PRINTED WITH SOY INK
R100 古紙パルプ配合率100%再生紙を使用